

江文源



目 次

ご挨拶・澗江第4号発行にあたって…同窓会理事長…渡辺達好……2
1万同窓への報告と訴え…学長…藤田敬三……3

同窓会本部だより
総会報告と昭和42年度決算、
43年度予算、役員名簿……4

大学学園だより
卒業式、入学試験、入学式、体育館完成、
茨木市校地造成事業など……6

山小屋をご利用下さい……8
あの頃のこと 変動期……9

支部活動を語る(座談会)……17
出席者 服部(東京) 岡田(東海) 木下(京都)
梶村(丹有) 三好(神戸) 永川(姫路) 大森(岡山)
佐々木(広島) 小田(山口) 谷(徳島) 荒牧(九州)
内田(福井) 中村(大阪市役所) 齊藤(和歌山相互
銀行) 各支部長と倉垣(丹有)副支部長

クラブ活動の現況
独立総部 新聞会・放送局・応援団・吹奏楽総部
ワンダーフォーゲル部
芸 術 部 軽音楽部・演劇研究部・グリークラブ
写真部・映画研究部・美術研究部・吟詠部
茶華道部・マンドリンクラブ・
邦楽同好会・ギター同好会

随 想 田岡嘉寿彦 倉辻 平治……29
津 田 昇 松本 義和

北から南から — 同窓生短信集……32

□編集後記……38

42年同窓会総会から……13
東京支部総会から……16
体育館完成……25
茨木市校地造成工事起工式……28

学 歌 道 遙 歌……39

表紙説明 同窓会へ仲間入り
本年度卒業式から

澗江第四号発行にあたって

同窓会理事長 渡 辺 達 好

昨年「澗江」第三号が発行されたのが丁度八月何時の間にやら一年が過ぎようとしている。全国会員の各位には或いは待ち遠しく感ぜられていられる方も多いことと思う。今回も編集部各位のお骨折によりいよいよ完成、昨年の今頃のように各位のお手許にお届けすることの出来ることを何よりお喜び申し上げる。

最近の母校の状況については本誌の内容を見ていただければその概要がお解りいただけるであろう。かねて待ち望んでいた体育館も去る六月旧体育館跡に堂々たるものが完成した。恐らく全卒業生の各位には想像も及ばぬものである。どうか是非一度ご来訪願いたいものである。なお茨木市郊外に造成中の約一万余坪に

わたる新グラウンドも近々に完成の域にある。

かくの如く学内の施設の充実は他大学に劣らぬ進展振りを示している。ただ思うにつけ最近の各大学における学内紛争もさることながら特に学生活動についてはいささか私には解し兼ねるところもある。いわゆる三派系全学連の暴力行為はいわゆる学生の本質を忘れたものではないかとすら思える。若い学生の情熱がこの暴力行為に、しかも集団的に向けられてはならないと思う。学生は何をおいても学問をすべきであって、大学生活は何度も与えられる機会でないことを自覚すべきであろう。純情のほとばしりはよいが、与えられた四年間の学問の追及と諸体育

1万同窓への報告と訴え

学 長 藤 田 敬 三

学園のその後の簡単な報告でもってご挨拶に代えたいと思います。

今春、発足した大学院の博士コースは順調に進んでおり、入試の方も志願者の質、量共に伸びが目立っており、就職の方も逐年好調です。ついですが、大朝との広告のもつれからかと思われる今春の大毎の記事も私学経営の事情にうといもので、ご心配頂く程のことはありません。

第三の学部は(学部名は未確定です)細部の準備の都合上来春開設は無理かもしれませんが、基本線は確立しております。設備拡充の点では去る六月末工費一億数千万円の体育館が竣工を見、秋には茨木のグラウンド一万余坪の造成が完了の予定になっております。またかねて同窓生諸君からの要望もありました学名標示は、最近D館四階の幹線に面した側に掲げることになりましたからご旅行の途次ご覧願います。なお昨年度暗渠化された学園の北側が、今年末迄に市の手で緑化道路に整備される由ですから、これが完成すれば学内の芝生や樹木の成長と相まって可成快適なCampusが出来上るのではないかと期待しております。

ただ学生運動のことについては常々ご心配を頂いておりますが、ご承知の通り本学は数年前より全学懇談会の名において自治会代表と、大学側代表とが年数回話し合うことになって意思の疎通をはかっておりますので、内部の学生との関係が特に険悪になるようなことはありませんが、最近七〇年の安保との関係で他学の学生其他の介入のおそれがあり、これを阻止することが次第に困難となりつつあるのでそれには頭をいためております。

このような面からも、今後は本学関係者全体が一丸となって学園の伝統を守り、これを強く正しく伸ばして行くことが不可避となつて来るように思われますので、何卒倍旧のご支援を賜りますようお願いの母校愛に特に訴えるものであります。



を通じて鍛練される強固な魂や、人生の行路に欠かせない学友をより多く作ることに一層の努力を傾けてもらいたいものである。
幸にして本学の在学同窓生の良識は恩師の適正なるご指導によって、高邁なる学識と高潔なる人格の完成に向って進んでいることを伺い結構なことと思う。
今や国内、国外といはず大袈裟に言えば、まさに世界状況は目まぐるしくつぎつぎとシヨッキングな幕が開き一向に立派な幕閉じがない。幕が開いても容易に閉じることなく、またいやな幕が開かれる。これでは寸刻も安定した環境の中にいられるとはいえないかも知れない。しかし、これがいはば永遠に続く日本歴史ないし世界歴史の一過程かと思えば良いのである。
誠に憂な挨拶文となったが不悪御救し願いたい。全国各地にご活躍の同窓生各位には、益々ご健康に留意され一層のご発展をお祈りする次第である。
(昭四三、六、二八、記)

新しい理事と支部長

▷(1)内田真二▷(2)中島春雄・松原四郎▷(4)中村 源・三木 薫・森元庸元▷(5)岸本健蔵・清水忠文・長岡辰生▷(6)伊藤音七郎・川島正作・吉見 巖▷(7)高垣 収・日南為雄▷(8)柴田秀一・長尾 晃・中島政義▷(9)武川茂夫・西村義雄▷(10)榎井貞詮・辻野勝一郎・竹内美次▷(11)桑津 昇・筒井英夫・重里 実▷(12)坂上謹之助・百野 操▷(13)前田悦子・山崎和子▷(14)上野満里子・柴田悦子▷(15)黒田 稔・大川 良・木下一子▷(16)百瀬昭治・酒井克己▷(17)太田一澄・相馬士朗・西尾良明▷(18)貝塚 茂・浜本 泰▷(19)杉本英次・橋本基一郎▷(20)山村恭造・川野郡平▷(21)神 喜作・太田利正・奥山正美▷(22)森本真輔・大槻明司・谷口一郎▷(23)西本集一・坂口良三▷(24)上野晃司・忠政 茂・山上景士▷(25)村井十三夫・邑上 亨▷(26)田丸寛二・坂井田雄賢▷(27)旭克之・森泉新一郎・坂元 祐▷(28)平尾哲男・鶴谷利一・大久保儀臣▷(29)小馬一起▷(30)川上堅士・神田 博・大室和弘▷(31)杉浦雄二・寺岡利之・山本昭夫▷(32)村田哲夫・中沢広凱▷(33)大槻 諠・渡合家富

学校側理事 大北文次郎・梅田武文・浅沼玄恵
同窓会支部長
▷東京支部 支部長 服部 友一(10)
▷東海 " " 岡田 佐市(6)
▷滋賀 " " 野田 邦弘(4)
▷京都 " " 木下 隆徳(6)
▷丹 戸 " " 梶村 文弥(8)
▷神戸 " " 三好 悌彦(6)
▷姫路 " " 永川 仁一(6)
▷和歌山 " " 松本 旬弘(5)
▷岡山 " " 大森喜多志(6)
▷広島 " " 佐々木一義(9)
▷山口 " " 小田 護(3)
▷高松 " " 矢野 保郎(8)
▷徳島 " " 谷 俊一郎(9)
▷高知 " " 横田 憲介(7)
▷九州 " " 荒牧 博之(6)
▷石川 " " 石地与四太郎(2)
▷福井 " " 内田 甫(6)
▷富山 " " 重松 尚(23)
▷三重 " " 水上 敏雄(3)
(職域支部)
▷大阪市役所支部 支部長 中村 宗啓(3)
▷和歌山相互銀行 " 斎藤 照雄(4)

昭和42年度決算表

自 昭和41年10月1日 至 昭和42年9月30日

Table with 6 columns: 収入の部 (科目, 決算額, 予算額), 支出の部 (科目, 決算額, 予算額). Rows include 前期より繰越, 会費収入, 雑収入, 計, 特別基金勘定へ振替, 総会費, 役員会費, 支部費, 学対費, 編集費, 事務費, 慶弔費, 予備費, 次期へ繰越, 計.

昭和43年度収支予算書

自 昭和42年10月1日 至 昭和43年9月30日

Table with 6 columns: 収入の部 (科目, 予算額), 支出の部 (科目, 予算額). Rows include 会費収入, 雑収入, 前期より繰越, 計, 総会費, 役員会費, 支部費, 学対費, 編集費, 事務費, 慶弔費, 特別基金, 予備費, 計.



|| 総会にて42年度決算、43年度予算承認 ||

新役員のもとで決意新たに

菊かおる昭和四十二年十一月二十三日(秋分の日)、母校学生会館ホールにおいて昭和四十二年の同窓会総会が開催され次の各議案が審議、可決されました。正午より、学生会館食堂でビールパーティが開かれ、喫茶室も同窓生のために無料開放、また当日出席者には、好評を博しております「経大」のマーク入りのタンブラーのお土産も例年通りに用意され、久方振りに「友遠方より来たる」のたよのよりに全国各地より同窓生参集、その数約七百、諸先生のご臨席も仰ぎ、思い出話に談笑の花が咲き、旧交を温め合い盛大裡に納会しました。

昭和四十二年同窓会総会は、前文にもある通り十一月二十三日母校学生会館ホールで開かれましたが、大変な盛会で各議案もスムーズに審議されその後のビールパーティも終始なごやかなうちに終わりました。年々卒業生の数も増える結果、参会者も数をまし、あちこちで肩をたたき合ったり、「よお」と健康を祝しあったりする姿は本当に美しいのですが、地方からこの総会に出席された人達、また久しぶりに学校にこられた人達は、すっかり変わった学校の姿にただただ驚くばかり、「俺の在学中はここは何だったかな」と、感無量の体でした。

常任理事名簿と分担表

(なお今回は3回以上の常任理事の方々には総括的に全てを見ていただくことにし、業務は8回以降の回で分担することにしました)

- 学校側 藤原光治郎 教授
理事長 渡辺 達好 (3)
常任理事 広田 実 (1) 山上 善彦 (2)
世良 鍊次 (3) 磯野 育 (3)
総務担当 部長 玉岡 浩(12)
中村美智子 (13) 水野 敏也 (25)
会計担当 部長 山口 久雄(9)
編集担当 部長 松本 義和(18)
陰下 嘉典 (16) 山中 良夫 (19)
辰本 博己 (26) 大門 寿郎 (29)
事務局長 比企 重 (7)
監 事 宇野善四郎 (1) 小松真佐江 (14)
酒井 弘光 (23)

部長からは現状報告をいただき、学校と同窓会のますますの発展に意を強くした次第です。当日、総会の議案として審議されたものは次の通り
一、昭和四十二年(昭和四十一年十月一日より昭和四十二年九月三十日)決算案ならびに昭和四十三年(昭和四十三年九月三十日)予算案その他、原案通り承認可決されました。
一、本年度をもって同窓会役員任期満了に伴い、改選の件は各回卒業生中より三名推薦することを承認可決されました。
また、同日引き続き夜五時より梅田「かに御苑」にて同窓会支部長会議が開催され、学校側より藤田学長、北里専務理事、藤原、浅沼、奥村、倉辻、木村、玉井各先生(順不同)を囲み今後の諸方針等について懇談して散会しました。
今年ご出席を頂けなかった同窓生諸兄弟は、本年度総会には是非お元気なお姿を見せて下さい。お待ちしております。

はじめ、北里専務理事、藤原、浅沼、奥村、上田、木村、玉井各先生(順不同)ほか多数のご臨席を頂き、来賓各位から学校の現況について、また有意義なお話を聞き、各同窓会支

はひきつづいて行うクラス会・ゼミ会の打合せ、その言葉たるやこれが卒業した紳士淑女かと思うような学生言葉、謹厳なお父さんも夫も、またお母さんも皆さんが学生にかえっているその有様は、やはり昔なつかしい学生生活の思い出がなせるわざで、同じ学窓で育った連体感といつたものを覚えさせてくれました。そして、パーティの終り頃にはきせずして「学歌」、「学園歌」が誰の口からともなくもれそしてそれが大合唱になり、夕日がさしこむ頃に互に楽しい思い出を懐きながら家路につきました。

なお当日は、総会で藤田学長をはじめ、北里専務理事、藤原、浅沼、奥村、上田、木村、玉井各先生(順不同)ほか多数のご臨席を頂き、来賓各位から学校の現況について、また有意義なお話を聞き、各同窓会支

本部日誌

- 二月
- 一三日 経済学部入学試験
 - 一四日 経営学部入学試験
 - 九州支部総会
 - 一六日 二二回卒住友氏来訪
 - 一七日 常任理事会 於江戸ッ子
 - 二二日 二回卒山上氏お見舞
 - 二三日 編集部開催 於ホール
 - 二六日 一三回卒水野氏来訪
 - 二七日 三回卒福富氏来訪
 - 二八日 二六回卒杉浦氏来訪
- 三月
- 一日 与田先生告別式
 - 二日 茨木グラウンド起工式
- 四月
- 四日 七回卒田中雅次郎氏来訪
 - 七日 総務会会場設営
 - 八日 総務会開催
 - 四日 古久保先生、一五回卒柴田耕造氏来訪、山小屋の件
 - 一九日 三三回卒山中氏来訪アテナ印刷機の件
 - 二二日 一五回卒黒田稔氏来訪
 - 二二日 会計部会(会計引継)
 - 五月
 - 五日 編集部会澗江編集
 - 八日 入学式
 - 一部 経済経営挨拶
 - 三回卒 世良氏
 - 二部
 - 七回卒 比企氏
 - 大阪市信用金庫来訪
- 五月
- 九日 二八回卒大林氏来訪
 - 一〇日 軽音楽部来訪
 - 一五日 グリークラブ来訪レコーディングの件
 - 一六日 三四回卒岩本氏来訪
 - J O C S 関西事務局へ通
- 六月
- 一日 神戸支部総会
 - 五日 六回卒朝倉賢治氏来訪
 - 一二日 三回卒田代辰男氏来訪
 - 六月
 - 一日 信の古切手送附
 - 二二日 三三回卒窪田一彦氏来訪
 - 三三回卒木村洋氏来訪
 - 二二回卒住友五男氏来訪
 - 二二日 梅田先生お見舞い、香里病院世良氏、比企氏
 - 備 病氣全快され六月一日より常任理事山上氏勤務。
- 七月
- 一日 二八回卒武上一貫氏来訪
 - 一二日 三三回卒木村靖氏来訪
 - 二二日 三三回卒藤井正人氏来訪
 - 二二回卒水野氏来訪
 - 二三日 三三回卒水野氏来訪
 - 三四回卒白藤勝氏来訪

大阪経済大学学園たより

茨木市用地の第一期造成工事も

デラックス体育館が完成

この一年、学園にもいろいろの動きがあった。体育館の完成、茨木市に購入済みの十五万平方メートルの用地の第一期造成工事といった建設事業から、学園行事の集る二月―四月には、卒業式、入学試験、入学式と一連のあわただしい動きがあったが、その間、与田先生の交通事故死という思わぬアクシデントもあって、こころは学園も大忙しであった。

昭和42年度・卒業式

(昭・43・3・18)
昭和42年度卒業式(第34回)は3

月18日(土)午前10時より「学生会館」大ホールにおいて挙行され、一、二、三、七名の新しい卒業生が希望

に燃えて果立っていったが今年の、大きな特徴は、卒業条件が従来より厳しくなったため多数の留年組を出



学園だよりもあるように、去る2月27日本学教授与田征教授が自動車事故により逝去された。ここに一文を呈し、心からご冥福を祈る。

「比企さん、交通事故で死ぬのが一ばんつまらんよね。こころといけばまだいいが、片輪になってぶらぶらではね……。そのころりも本人はそれこそ交通事故だからあつというまのできごとで痛いくそもなく、ぐわんとくればそれで一巻の終り。本人は何もわからずになってしまうが後に残ったものが大変だよね……。それも残されたものが一生生活に困らないだけの保障があればまだしもそれがなければたまらんよね……。」

二月、十四日九州、博多で入学試験が終わった後、先生が柳川ご出身なので、夕食までの一刻博多の公園をタクシーで案内して頂いた車の中でのただ一つの纏まった話題、すなわち私が博多の町も車がふえましたね……、といったことについての先生のお話の内容がこれだった。

与田先生を偲ぶ

それがともあるうに三日後に現実となって先生の身におこったのですから私は本当に驚きました。そして私自身それ以来車にた

いして必要以上に慎重になったことも事実です。
ご家族を除けば私が一番最後に先生と起居を共にした人間でしょう。三日間、同じ部屋で生活し、余暇にはランプに興じ(博多にきてはじめて覚えられたのであるが)、反面夜になると三回生の社会政策の採点と、平生の社会政策辞典の校正を夜を徹しておこなわれ、十四日朝「比企さん、やっ」と校正ができた、今から速達で出せばやれやれだ……:とはればれとしておられた。

また学校の現況、将来について、学生についてあの声量のあるお声で情熱を傾けて大いに語られたものでした。
それだけに、私は先生の悲報を聞いたとき、しばらくは信じられずただ茫然とするのみでした。
本当におしい先生を失ったと思えます。今はただただ先生のご冥福を心から祈るのみです。

昭和43年度入学式

(昭・43・4・8)

本年度入学式は学生会館ホールにおいて三回に分けて挙行。

経済学部(昼) 一、〇〇一名
経営学部(昼) 一、〇〇五名
経済・経営(夜) 六五六名
計 二、六六二名

の新生が希望に胸ふくらませて入学したが、難関を突破しただけにより質のよい学生が確保された訳で、今後に期待がもてる。

与田 征教授 逝去

(昭・43・2・27)

本学与田 征教授(社会保障担当)は京都で自動車事故に遇われ、大学関係者の祈りも空しく2月27日逝去。前途有為の青年学徒の痛ましい事故死にいい知れぬ憤りを感じ、心からご冥福を祈るものである。

新体育館 竣工

(昭・43・6・10)

旧体育館及び旧テニス・コート跡に新体育館を建設することが決定し、昨年10月着工、8カ月を費して去る5月末完成。6月10日竣工式が挙行された。新体育館は総工費、一億六、二八〇万円、鉄骨鉄筋コンクリート造り(3階建) 国際規格の各種競技場をもつ関西の大学でも有数の大体育館(建築面積一、四八三・八九㎡、延床面積三、五七四・四五㎡)で学生スポーツの殿堂としてその威容を誇っている。

○茨木の校地造成
(昭・43・10・31・竣工予定)
数年前買収を了った茨木の校地(一四八、七三三㎡、四五、〇〇坪)の造成工事(第一期)が目下急ピッチで進められている。第一期工事は主として球場・陸上競技場の造成・排水調整のためのダムの建設・水路の造修工事で、本年10月末竣工予定である。

学園人事

- 四二・二二・一一 新任職員
- 林 一雄 就職部
- 二二・三二 新任講師
- 丹羽 治男 独 語
- 二二・三二 新任講師
- 高橋 彦博 政治学
- 一・八 新任職員
- 矢島 洋二 図書館
- 二・一 就職課長
- 滝野 宏 経理部長
- 二・一五 助教
- 古久保五郎 教 授
- 二・二八 助教
- 与田 征 教 授
- 二・二八 助教
- 与田 征 死 亡
- 三・三二 教 授
- 信垣 直一 停年退職
- 助教
- 田中 昭 依頼退職
- 一助 教 授
- 山本 晴義 教 授
- 講師
- 元浜 清海 助 教 授
- 新任 教 授
- 成瀬 洋 地 学
- 伊藤 武 金 融 論
- 武 融 論
- 住友 一 次 生 理 学
- 三ツ星 三 英 語
- 三上 正 礼 図 書 館
- 栗津 信 教 務 部
- 鈴木 亨 経済学部長
- 井上 清 経営部長

四・一 教 授
 渋谷 寿夫 教養学部長
 講 師
 坂野 登助 教授
 青谷 清助 教授
 新任教授
 黒羽兵治郎 日本経済史
 教 授
 鈴木 正里 学生部長
 助 教 授
 大槻 弘 学生課長

小山 賢一 学生寮監
 六・一七 書記係長
 井手口茂美 (旧学生寮)
 書 記
 西口 紘志 (旧学生部)
 六・二四 教 授

浅沼 支恵 (体育館長
 兼教務部長)
 七・一 新採用
 橋口 利行 教 務 部
 七・一五 交換手
 楓 美智子 依頼退職

山小屋をご利用下さい

大阪経済大学白馬ヒュッテご案内
 昭和三十六年十一月三日に落成式
 を行ない白馬乗鞍岳中腹の山林中に
 立派な本学のヒュッテが赤い屋根も
 美しく建立し、すでに七年の才月を
 経て今年山小屋委員会より正式に学
 校へ寄贈し、本学の厚生施設の一環
 として同窓生各位にもご利用頂ける
 こととなりました。当時予算二百五
 十万円にて学校、自治会、体育会第



二学部自治会、山岳部C B会 (経
 営)、山岳部員の寄附により完工し
 たヒュッテは、長野県と東京急行電
 鉄がその開発に力を注いでいる榑池
 高原の中に早大、阪大、成城大、
 京都医大の山小屋とともにあり、六
 月十一月は登山、十二月五月は
 スキーとその利用価値は大きく、将
 来は交通の発達、道路の開拓にとも
 なって前途は洋々たる自然の理想郷
 と相成ることは必定
 であり、山小屋存在
 の意義は今後益々増
 大するものと思われ
 ます。

路四時間半もかかる急坂を四トンの
 建築資材をかつきあげ、他の大学や
 近郷近在の村の人達や関係者を驚嘆
 させたエピソード数々あり、彼等に
 とっては文字通り汗と油、血の結晶
 であったといっても過言ではないと
 いえます。現在ヒュッテにはストー
 ヴ、炊事用品はありますが、寝具、
 食料品は盗難や鼠害の危険もあり常
 備しておりません。したがって行
 行かれる方はその準備もお忘れな
 く、本学学生部の事務所に詳細尋
 ねて頂ければ幸いです。

今後ヒュッテに必要な物は常備す
 るつもりでおります。ヒュッテの内
 容は二階建の写真に見る如く立派な
 もので、延建坪三十三坪、二階は蚕
 棚式の寝室で四十名位は楽に宿泊出
 来ます。見晴しも素晴らしい北アル
 プスの白馬連峰、唐松岳、鹿島槍岳
 が手にとるように一望に眺められ、
 その美しさは筆舌に尽し難いもので
 あり全く「百聞は一見に如かず」の
 文句がピッタリするパノラマが展開
 されます。また小屋一体は高原状で
 梅の森や高山植物が美しくハイキン
 グにも好適ですので、同窓生各位も
 大いに利用して頂けるものと思っ
 ています。宿泊は一人一泊冬二百五
 十円、夏二百円で、所定の用紙に(学
 生部にあります)責任者、人数、宿
 泊月日、日数を記入して本学学生部
 へ申し込んで下さい。

現地連絡所は
 長野県北安曇郡白馬村新田
 降旗儀徳 TEL白馬
 (〇二六一七二)一五六
 本学ヒュッテ管理人です。
 大糸線信濃森上駅下車徒歩十分
 食料、その他の準備をしてくれ
 ます。
 山岳部OB 15回卒 柴田耕造

四・二六 教 授
 倉辻 平治 図書館長
 一 書記係長
 内田 三良 課長(庶務)
 玉岡 浩 (図書館)
 石井 敏雄 (就職)
 中田 伊織 係長(管財)
 田所 清市 (教務)
 細羽 由三 (庶務)
 桜井 弘志 (〇〇)
 鍋島 哲郎 (研究所)
 石川 菊 主任(図書館)
 米田 玉男 (〇〇)
 香積 弘長 (〇〇)
 七 教 授
 木村 武夫 教務部参与
 六・二六 講 師

あのころのこと 3

変 動 期

日支事変から太平洋戦争へ (七回〜十二回)

波乱にとんだ学生生活

同窓生が語り伝える学園史も今回
 で三回目、卒業回数も第七回から第
 十二回まで、つまり日支事変から太
 平洋戦争にいたる、わが国にとつて
 は激動期の学生生活を語ることにな
 る。

まず話合いは、この回の題をどの
 ようにつけるかいろいろと話合っ
 た。

日本の歴史と同様に「激動期」と
 すれば、という意見ももちろんあっ
 た。反面、この欄は学園史を語ると
 いう立前から、ようやくこの頃には
 学校の基礎も固まり、教授陣もます
 ます充実してきたというところから
 むしろ「安定期」とすべきではない
 か、という全く逆の議論もあった。
 そうした中で、ようやく戦争も激
 しさを加え、学生生活も戦時色一色
 に塗りつぶされた、あの当時の幾多

▽……この企画は、卒業生の口づてに伝える学園の歴史である。……△
 △……この学園も、創設されてすでに三十有余年、その間幾多の……△
 △……波乱、幾多の変せんを経て、いまや大阪経済大学として、……△
 △……揺ぎない基盤の上に立派な校風をうちたてた。思えば浪……△
 △……華高等商業学校にはじまり、昭和高等商業学校さらには……△
 △……大阪女子経済専門学校、大阪経済専門学校、そして大阪……△
 △……経済大学へと五つの大きな変動期を経過。それぞれに苦……△
 △……難の道ではあったが、苦しみにつけ悲しみにつけ、はた……△
 △……また喜びにつけ、いまは楽しい思い出として、それぞれ……△
 △……卒業生の胸に暖く宿っている。その折り折りのエピソード……△
 △……ド―そのエピソードを綴り合せてのがこのページである……△

バンカラ気質

まず、七回生の過ごした学生生活
 は、日支事変の勃発というアクセシ
 ントはあったが、まずまず平穩な中
 にあった。

授業はきびしかったが、まだ生活
 をたのしむゆとりがあった。学生の
 家庭環境も比較的良好、経済的にも
 かなり恵まれていた。

当時の授業料が年額百円(その頃の
 の初任給が六十円位だったから、
 決して安いものではなかった)小使
 いは平均月十円、一日に五十銭とい
 うのが大体の相場で、タバコの光が
 十銭、みりの食堂のうどんが六銭、
 学校の食堂で定食が十二銭だった。
 五十銭でゆうゆうやれたが、少しゆ
 とりのある連中は平安食堂に、ここ
 ではうまいものをくわしたし、かわ
 いいネエチャンがいて、サービスも
 よかった。

当時の昭和商の学生気質は、概
 してバンカラ、旧制の高等学校にア
 コガレてか飯衣破帽、腰に手拭をぶ
 らさげチビタ下駄はきかあるいは高
 下駄姿が多かった。高下駄といって

も台が一寸五分、歯が三寸五分もあるというしろもので、これでさっそうと歩いていっただけである。さてこのパンカラ気質であるが、これには少しわけがあった、つまり当時の昭和高校生には旧制高校をスペクタ浪人組が多く、浪人一年、二年はザラ中には三年、五年という超ベテラン組もいて、これらが旧制高校にアコガレて、ということになるのだが、こんなわけで平均年令も高く、妻帯者も一割位はあった。

しかし、このモジャモジャの頭も昭和十五年の荒木文部大臣の断髪令で、いっせいに丸刈りとなる。中には反骨精神旺盛で、ガンとしてきかぬ者もいたが、学校側の最後の奥の手、断髪しないものは試験を受けさせない、という強硬手段にあってついにみんな丸坊主になってしまっ



た。パンカラで血のけの多い連中が多かったために、いろいろのワルサもしたが、中でも新京阪の上野の駅で、昭和商前と車掌がいわなかったというので、随分と車掌をつるしあげ電車を止めたものである。

「八八禁止令」

よく遊び、よくやんちゃもしたがまた一方ではよく勉強もした。したというより、させられたといった方が妥当かも知れない。

いまでも忘れられないのが「八八禁止令」である。

「八八禁止令」というのは、八十八時間欠席したら、いかなる理由があろうとも試験を受けさせないというきびしいものだった。

欠席時間が八十七時間になると、原先生（現在の浅沼教務部長）から呼び出され、あと一時間やぞ」と念を押され、八十八時間になると掲示板に書き出される。これで全てが終りということになる。

それじゃ代へんすればよいではないか、という疑問を持つ人もあるだろう。しかし、これが全然駄目。つまりあの頃は自分の席が決っていて、その席にいない者は、先生のあとからついてきた教務課の人にチェックされる。うっかり他人の席にでも坐ろうものなら、立ちどころにパッテン、代席なんてあろう筈がない。代席はつまり自分の欠席につながらるわけである。これは合併教室で

も同じ、自分の席はここでも厳然とまわっていたために、みんな熱心に授業には出たものである。

それに進級についてもきびしかった。成績は優（八〇点以上）良（六〇点以上）可（五〇点以上）不可（四〇点以上）赤不可（四〇点以下）とあり、赤不可が一つあれば落第、不可三つでこれも落第、不可二つで追試験、黒不可の場合には仮進級という、まったく血も涙もない冷酷無惨なものだった。試験と入社試験がブチ当り、やもう得ず欠席しても八〇カケの追試験、うっかりしようものならこれで赤不可にもなりかねない。せめて卒業する時くらいは、何とかしてほしいといっても、これも駄目、よくよくきびしいものだったそれだけに皆んなよく勉強をしたものである。

いま時の学生に、これをしていっていったいどうなるだろう、果して何割進級出来るだろうか、よくよくいまは学生天国に出来ているものである。

きびしかった入学

そうそう、出席時間や進級問題が出たついでに、いま一ついい残しておきたい点は、入学試験も非常にむずかしかったということである。競争率も激しんだが特に商業学校出にっっては過酷なものだった。

大体が中学校出が優遇されていたが、年代によって入学者数が違うとはいえ、中学出と商業学校出の数は五対一から四対一、商業出はやと五十人が入学を許されるといった按配だったが、それなりに入試はきびしかった。

この傾向は戦時色が高まるに従ってさらにきびしくなり、十一回、十二

回頃になると、すでに商業学校それ自体で入試を受ける者を制限するようになり、しまいには一割以内といった制約まで受けるようになった。時代といえれば時代だが、ムチャなことをやったものである。

やっと晴れて入学が許されるとクラス編成になるわけだが、この当時は何にしろ大東亜共栄圏が巾をかきかせていた時代、A・B・C・D・E・Fと六組あって、それぞれの第二外語が、A組はフランス語、B組がドイツ語、C組以下はチャイナ語とこでも支那語が圧倒的だった。

絶対的だった階級制

きびしいといえ、もう一つ。当時の昭和商前は階級制が厳然とし、上級生は絶対的なものだった。スパルタもいところ、鉄拳はほとんど飛ばし、制裁は日常茶飯時、上級生はともともともこわい存在だった。年をとった今でも、先輩にあうとその当時の思い出がチャリと頭をかすめついでに平身低頭してしまう、それほどにきびしさが骨の髄までこたえていた。

学年は襟章をみれば一目瞭然だが一年は赤、二年が水色、三年が白、赤組は水色白色両方から敬礼を忘れたといっちはビンタ、言葉使いが悪くといっちはコズカレ、いつも戦々兢々一日も早く白い襟章をつけたいとこい願ったものである。

上新庄の駅につくと、始業を知らせるカンカンという鐘の音、十分以内なら、まだ出席が認められるというので、鞆を抱えて走るわけだが、いつも通いなれた川沿の道は上級生がワンサ、一人一人敬礼していたのではとても十分では学校にいけない。やむを得ず間道を縫いなが

ら走るのだが、思えばあわれなものだった。

あまりのひどさに下級生が、ストライキをやったこともあったが、これも相手をいよいよ硬化させるだけだった。

クラブ活動は全盛

このきびしさがクラブ活動の面では、一段と活況を呈し、戦績にも大いに影響していたことは事実である。

柔道部が、はじめて近畿の学連大会で優勝、またサッカー部はこの年に念願の一部に昇格するという栄誉をになった。以後この栄誉は受けつがれ、サッカーはつねに一部にランクされて、強い伝統を受けついでなのである。

柔道やサッカーだけでなく、他の部でも戦績はとみに上ったが、この頃の部費の配分方法は、少し変わって

つまり、現在の自治会を中心にした配分方法ではなく、当時は各学年の総代会があって、各運動、学術、芸術の各部長にきてもらって、ここで分け合ったが、その配分は、あくまで実績本位、いかに部員が多くとも戦績、実績の悪い部はダメ、学術や芸術はその活動ぶりが対称になったが、運動部はあくまで実績、くやしければ勝ってこい、というわけである。強ければ強いだけ部費も増えるから、なお励みがたく、サッカーなどはいい例で、これでどんどん強くなっていったものである。

またクラブ活動とは別個に、当時わが校で、中等学校を対象に全国大会や、近畿大会をやっていたことも忘れられない。全国中等弁論大会はつとに有名だったし、運動関係でも、

庭球の選手権大会などが企画され、若人が覇を競ったものである。

ただ、このクラブ活動も戦況が進むにつれて、だんだんとその余裕をなくし、ここでも戦時色が強く打ち出されることになる。

用具の不足はもとより、競技用語でも英語はいけないということ、野球などではストライクが正球、ボールが邪球とまでいわされたのだが、全くのお笑い草。スポーツを楽しむゆとりも段々となくなってきた。

また、その頃、せっかく親しみなれた庭球コートが売られるという事件もあったが、これも先生方の給料が払えない、というのが原因、戦争もついにここまで学校を追い込むことになったのである。

たのしかった運動会



面目ほどこした査閲

クラブ活動の衰退と反比例して活発になってきたのが軍事教練、授業の中に占めるウエイも重くなってきたが、これには随分しぼられた。

いつだったか、当時査閲というのがあった。いかに軍事教練が徹底し戦斗意識が旺盛であるかを見るわけだが、或る年の査閲の目が大雨。篠をつく雨と形容するのにピッタリの状況だった。黒正校長も果して査閲が行われるか心配顔だったが、学生の意気は高く、その大雨の中、ズブ濡れになって頑張り通したわけである。

これには査閲官もいたく感激、講評で一段と声を張り上げて「優秀である」とやったものである。

この頑張りは、昭和商商のもとも誇りとすると、大いに面目をほどこした。

勤労奉仕も忘れられない思い出の一つだが、これを語っている余裕はない。

そうこうするうちにいよいよ学徒出陣である。

もう戦争はクライマックス、最後の手段として学生を引っ張り出すまでになった。

すでにそれ以前より卒業年月日は繰り上げられ、四月卒業が八回卒が十二月、九回卒から九月卒業となったが、それでも徴兵猶予の恩典がなくなつてからは在学中から入隊という者が相つき、いよいよ学徒出陣というせっぱつまったところまで追い込まれてしまったわけである。

この学徒出陣にあたって、その頃すでに六高の校長に赴任されていた黒正先生が、急きよ来阪されて声涙ともに下る話をされた。学生達の目

にも光るものがあった。黒正先生はほんとうのリベリストで軍国主義には、あくまで反対であったが、戦が始ったからには、やるだけのことではやるといふ信念の人でもあった。

町ぐるみの運動会

クラブ活動から、いっきよに学徒出陣まで飛ばしてしまっただが、こうしたきびしい社会情勢、軍事情勢の中で、意識的には追い込まれたものがあったが、まだ若さは失わず、年何回かの体育祭、芸術祭といったものには、出来るだけの情熱を傾けたものである。

いまでも印象に残るのは運動会。あの頃の運動会は、全校学生はもとより近所の人達もいっしょになった、文字通り町ぐるみの運動会だった。

朝早くからムシロを下げた近所の人達が周囲に弁当持ちで集り、競技や余興に、いっしょになって応援し笑い興じたものである。

この住民と一体となった運動会の感激は夜のとりが降りてからも、まださめず、学生全員が肩を組んで校歌を歌をうたいながらぐるぐると校庭をまわったのだが、ほんとうにこの一瞬は全てを忘れさせる魔力があった。

時代が時代だけに、緊張した生活の中の一瞬のゆとり——そこに赤々と燃えた情熱、これがいまでも皆さんの胸に消えずに、楽しい思い出となって残っているのかも知れない。

さらに、こうした激動期の学生生活は、一方で学生の団結を強め、愛校心を燃えさせたことも事実である。

この欄で、いずれも先輩達は殺風景な学校にうるおいを持たすために

緑を植えたことを強調されていたがわれわれもその意志を受けつぎ、学園の美化、緑化には随分と力をつくした。

大八車をひいて淀川堤防に芝生を取りに行くわけだが、もちろんこれは合法的なものではない。しかし、当時はまだ、これを許してくれるおらかさがあった。

周囲の村の人達は、先刻の運動会同様、一体感はあるし、暖い目で見られていた。

帰りに巡査とバッタリ出くわしてドギマギしたこともあったが、これも何とはなく笑って見すごしてくれていた。

いままの学園に残っている芝生や木には、われわれの汗と、学校を愛する情熱がこもっている。卒業時には必ずといっていくくらい記念樹を植えていったものだが、いまでも学校を訪ずれるたびに、成長した樹々を見て、越し方の年月を思いおこすのである。

先生の思い出

最後に、思い出すままに先生達の印象を——黒正先生については先輩達が随分と話しておられたし、前段にも出た。ここではあの漫談調の講義の中につばだけは心得えて、いつの間にか経済地理の要点をおぼえます、あの独得の風采と話術のうまさ

は天下二品、やはり得難い人であったことを特に記しておきたい、また、ひまな時はわれわれが校長室を訪れると茶碗酒で談論風発、その中にも貴重な人生訓があつて、人間としての立派さも格別だった。

現役では大北先生、学校のためには骨身を削って努力されたが、授業はきびしかった。金融論そのものが

難解の上に、これを原書でやられるわけである。国際経済論の建林先生（現立命大経済学部長）も同様であったが、英語のいが手な者にとつてはこの二先生の時間は頭痛の種だった。英語の奥村先生、支那語の梅田先生、ともに忘れられない先生だったが、前段に出た原先生に現浅沼教授には随分とご厄介になった。原先生の特長は、何といつても時間割の作成だったが当時休講になると、

学生が原先生のところへ押しかけて後の時間を繰り上げてもらう、こうした操作は原先生でなくては出来ないものだったが、反面試験の点は辛かった。泣かれた同僚も随分あった。

現役では、いま一人菊田先生と平野先生、菊田先生に道で出会って挨拶をすると「お茶でも飲みましょうか」とよく学生がご馳走になったものだし、特に天六の南京マジンジャーは忘れられない。

平野先生は、ご存知のように大阪フィルハーモニーの第二バイオストだが、ドイツ語の発音が悪いとバイオリンを取り出して、自らローレライをひき歌で教つたものである。これにはドイツ語のいが手なものも自然と憶えたり、メツチェンをはひかけるには好都合だった。

異質な存在、渋谷先生

学園を去った人では渋谷先生、この人も毎回出てくるが、やはり特異な存在だった。倫理の時間には静かに教室に入ってこられるが、工業概論ともなるとズブズブといった按配、授業をする体勢から違うわけである。

一応出席をとつたあと、

この原稿はつぎの方達にお集り願ひ、いろいろとお話をお聞きしました中からまとめたものです。

- 第七回 北企 重氏
- 第七回 日南 為雄氏
- 第十回 栞井 貞詮氏
- 第十二回 玉岡 浩氏

(文責 松本)

「私の講義をききたくない人は後を向いている間に、遠慮せずに出ていってください」

といつも黒板の方を向かれたものだが、ついぞ出ていく者もいなかった。

また、当時は西田哲学、田辺哲学と、哲学華やかなりし頃だったが久野さんの講義にもあこがれたものである。

哲学といえば、これに傾倒する学生も随分といた。

最後に、先生の思い出で書いておかねばならないのは、菅野先生が翼賛選挙で見事当選、これも全国一の得票であったことだ。

このほかにも思い出はつきない。しかし、残念ながら紙面がつかた。われわれをもって、一応昭和高校の幕は閉じる。このあとは女子経専となり大阪経専、経済大学と移り変つていくわけだが、最後の最後に、一つだけ——

われわれの同僚は、随分と戦の庭で尊い生命を落した。戦後二十三年この辺で一度、同窓相寄り学校ともども戦没者の霊をなぐさめる機会を持ちたい。われわれは生き残つて、こうして生活出来ることをしみじみ幸福だと思ふ。

42年度同窓会総会から





今年も、おみやげはとっさり用意しました。「経大」のマーク入りのコップは特に好評でした。



会場になる学生会館前では、早くも旧友を見つけて、「やあ、やあ」の挨拶、会場にお早くお入り下さいとのマイクも、いっこうにききめなし、友だちとは本当にいいものです。



会場正面向って左側には、なつかしい恩師の顔、開会にはまだ時間があるというのに、熱心に議案にお目通し、でも皆さんお若いのはびっくりしました。



つゞく2枚は宴会場の写真です。久しぶりで学長先生にあつて最敬礼 先生の顔にも笑がっぱい。



友遠方より来たる、ビールも料理も、そつちのけて歓談



そうです。わが校も、かつては女子経専といつた時代があるのです。何年前って、いやお年がわかりますので省略します。でも美人揃いであったことはたしかです。



この日は、同窓生のために喫茶室は無料で開放しました。コーヒーも紅茶もジュースもどんどんめし上がれ、といった按配でしたが、宴果てたあとは大入満員、和気あいあいの談笑がつぎきました。



ごつたがえす前の、ひっそりとした宴会場。ご覧の通り、このようにご馳走がいっぱいあつたのです。追加もちろんあります。生協の大サービスでしたが、今年是非おいで下さい。

世良 本日は十六支部のみなさん方お集まりになることになっております。まだ若干遅れてこられる方がございますが、本日はとりわけ遠方からお出でいただきましてありがとうございます。同窓会のほうも飛躍的な発展をしましてまいっております。支部長のみなさん方にはたいへん同窓会の運営につきまして陰に陽にお力添えをいただき、同窓会本部といたしまして心から厚くお礼を申し上げます。従来総会をやりましたのち支部長会議を開いておりましたけれども、ただ単なる懇談会に終始し、支部のみなさん方の動静なり支部長さんの同窓会に対する意見等をくわしくおききすることも出来ませんでした、恐らく皆さん方には同窓会の支部運営につきましていろいろご意見もあらうかと考えられるわけでございます。資金の問題につきましても支部の運営にはむずかしい問題もあり、従来とも各支部長さんがみずからの資金によってまかなっていたお姿をよく見受けられるわけですが、できるだけ同窓会本部としても合わせて考えてみたい。本年はさいわいにして名簿の発

行はいたしませんけれども、支部名簿の発行についてもいろいろ考えておるわけです。また本年は先日みなさん方新聞でご覧になったように多数の人員を入学せしめたということで、新聞も取り上げておりますけれども、この点につきましては、私まだ学長にも会っておりませんが、専務理事にも会っておりませんが、ひとり或る新聞が取り上げたということは、私の想像では、本年の入学合格者の発表につきましては、関西六大学はもちろんでございますが、われわれ私立大学において、たとえば京都府関係の入学者は京都版に発表しております。大阪府は大阪府版で発表いたしました。本年は大阪府版もこれは拒否されたことから、取り上げられたんじゃないかと考えるわけです。入学したものにしましては昨年までは一部寄付金入学があったのですが、本年からはそれをさせない。点数のたらないものは寄付金によって入学を許すということがありました。そういうことを一切やめ

はじめに

支部活動を語る

年々支部活動も活発に、ほしい経済的援助



同窓生の数も、いまや一万三千人を数え、同窓会活動も年々活発の度を加えているが、年一度の総会よりも、地方支部の動きも活発で支部の集りがあった当時の数は十九、それが現在は二つ増えて二十一となり、支部総会への出席者の数も増える一方だという。そこで今回は各支部長に遠路わざわざお越しを願い、支部の現状、本部への要望などいろいろとお話をおききすることにした。

東京支部総会から

たまたま、このページは100人以上も集った東京支部総会の写真が、世話役の牧田(19回卒)さんから送られてきたので集録しました。各支部の写真もどんどんお送り下さい。



上、ほんとうにおめずらしい顔。そうです初代同窓会理事長の市原卓爾さんです。この日には同窓会の繁栄の基礎をおつくりになったご努力に感謝して、三つ重ねの銀杯を記念にお賜りました。



(会場全景)

下、通産大臣菅野先生にも、まったくお忙しい中、特に一刻をさいてご出席をいただき、貴重なお話を伺いましたが、先生の音頭で一同乾杯。



るということもありまして、多少経済的な問題も付随してまいった関係から、多少人員をふやして入学を許可したというのが実情のようです。その点一応のご了解を得ておきたいと思ひます。

松本 それでは各支部の活動状況を具体的にお願いしたいのですが、何しろ十六支部からお出願してありますので、お一人三分程度で支部の現況をお話願ひ、あまりました時間を本部にご要望があればお聞きしたいということでも座談会を進行していきたいと思ひます。それでは右の方から順番に齊藤さんから。

家族的な近親感

齊藤(和歌山相互銀行支部) 和歌山相互銀行職域支部としては、二月三日に藤田学長をお迎えして、われわれ管理職一同の研修会に特別講師にお迎えしたいと考えておりましたところ、和歌山市役所前に六階建てのビルが出来まして、その落成の第一号の特別講師としてお迎えしました。またこの間も経済大学の先生方が和歌山県下の高等学校の進学の先生を集められまして、和歌山経済センターで経大のPRをなすつたのですが、そのさいにも学校から教授の方が見えになりましたが、さっそく私もかけつけまして、高等学校の先生方を交えまして親しく話合つたのですが、大学の卒業生というのはこういう場合もかけつけていただけなんだという経大のファミリー的な近親感を高校の進学の先生方にも感じ取っていただいたんじゃないかと思ひます。支部は二十人ほどですが、なかなか一堂に会することはむずかしいのですが、新入行員がはい

ってくるたびに会合いたしました。人間的な結び合いをして各職場へ入れるということをやっております。

三好(神戸支部) 会員は出入りがありますので確実ではありませんが百八十五名ぐらゐ、そのうち役員が各卒業回数のうちから一人ずつ。役員の数が出てないところもあり十六人で、横の連絡をとっていただく。いまのところ神戸支部としては学校に協力するということはほとんどやっております。会員相互の親睦と相互の理解が必要だということで、大阪経済大学同窓会神戸支部だよりを一年に一回発行しておりますが、ただ経費の面で支部総会に出席された会費の中からこれを捻出するということになることもありません。これを出席できない人にも発送してあげたいという意味から、同窓会本部からもらっている協力をつきこんでいますが、これでもなお不足という状態です。

中村(大阪市役所支部) 市役所支部は和歌山相互銀行支部と同じ職域支部です。会員が三十八名、ただ支部名簿をつくれるというのでこの機会に同窓会名簿でよく調べたら何と現在六十六名もおられるようで、菅野先生、中村先生、これは元市役所におられたということで特別会員になっていただいておりますが、それをよせると六十八名ということがわかったわけですが、中には支部組織を知らない方がおられるようなのでこんご連絡をとっていききたい。活動としては年一回親睦会をやるという程度のことしかやっておりますが、今後は学校はもとより同窓会本部に對してもなんとか寄与できるようにしたいと思っております。

下といつても相当離れている、こういった問題をどうするか、他の地区でもいづれこういった問題があるろうかと思ひますので、これはあとから希望をのべたいと思ひます。

服部(東京支部) 東京支部は以前あつて一時中断されたような形になつておりましたが、いつでしたか、藤原先生、大北先生お出になつたとき、東京にも一度支部をつくってくれんかというお話があり、たまたま私の勤務している会社が日本橋のわりやすいところにありますので私がお世話させていただいてるようなわけです。その後、年々東京におみえになる方が多くなりまして、はっきりした数字はわかりませんが、現在三百八十五名登録されております。転動される方が多いという関係で、私のほうで困るのは人員をいかに把握するかということで、先月はおられたが今月はおられないということがあるので随分苦労しております。十二月一日に支部総会をやりましたが、ちょうど菅野先生が通産大臣をやっておられたときで、お忙しいなかをご出席賜りました。東京のほうは大学生が運動部の関係で東京に試合のため上京するというようなときお立ち寄り願うということがたびたびありますが、先だつても野球部が練習のためにグラウンドを提供してくれというので、私のほうの会社のグラウンドを提供したということもございましたが、その程度のご協力しかできないのが現状です。

たんですがお帰りになつてすぐ交通事故でおなくなりになりました。残念なことをしたと思つております。活動状況ですが、会員の親睦ということももちろんですが、それと同時にお互いに助け合いもやつたほうがよくろうと思つております。たまたまある会社に勤めて失職した人がおつたんですが、同窓というところで私のところへたずねてきて、なんとかいい職場はないかというので世良先輩にお願ひして日産に勤めるようにしてもらつたということもあります。それと九州から経大に入学する学生が少なくないわけですが、もう少しやりたいと思ひまして、学校の教務課とタイアップして高校にPRするというところをおおげさですが、そういうこともやっております。山口支部の先輩からお話がありました。支部の先部のエリヤの問題、支部総会でも私提案したんですが、なにしろ九州七県があつて七県を福岡だけでまとめるのは無理な気がするんですが、この点ご批判ご意見をいただきたいと思ひます。

岡田(東海支部) 東海支部の会員数は概算二百三十名くらい。一昨年創立二十周年を記念いたしました名簿をつくりましたが、人員の把握には困つております。何分にも異動された場合支部への連絡がない。東海支部といつても愛知県、静岡県、岐阜県、三重県と四県にまたがっているもので、会員数は二百名おつても集まるのは二十名くらい。先程からお話のエリヤの悩みを抱えているわけですが、そんなこともあつて学校への協力も一向していかないといった状態です。

大森(岡山支部) 岡山支部は自慢話もありません。会員の人数は二百

座談会出席者(発言順)

和歌山相互銀行支部長	齊藤照雄氏
神戸支部長	三好悌彦氏
大阪市役所支部長	中村宗啓氏
山口支部長	小田護氏
東京支部長	服部友一氏
九州支部長	荒牧博之氏
東海支部長	岡田佐市氏
福井支部長	内田甫氏
岡山支部長	大森喜多志氏
徳島支部長	谷俊一郎氏
丹有支部長	梶村文彌氏
丹有支部長	倉垣貞雄氏
広島支部長	佐々木一義氏
姫路支部長	永川仁一氏
京都支部長	木下隆徳氏
本部出席者	渡辺理事長
司会	松本編集部長
玉岡常任理事	比企事務局長
大世帯の東京、東海支部	広田・世良・磯野

小田(山口支部) 現在会員は六十名前後だと思ひます。昭和十七、八年ごろ関門支部というのをつくりまして、下関と門司で七、八名の人間でやつておりましたが、戦時中は中止しました。戦後しばらくは、宇部と小野田地区ならびに下関地区

五十名から二百六十名。いままで合してみてもいつも三十名前後、岡山同窓生のなかには東北と県南といたつた岡山市から相当離れたところに同窓生が多いので折角支部総会を開いても、一日で日帰りできない。そういうことが多分に関係しておると思ひます。

地元新聞の支援で

内田(福井支部) 私のほうの出来た由来は、一昨年の四月でしたが卒業生が私のほうにきまして、大阪経大の会合を一つつuckingしてほしいという、その時は、私も支部という考えは、実は持ってなかつたのですが、それなら一べん集まろう。しかし集まる方法をどうしたらよいか、名簿ももちろんありません。そこで新聞社のほうに相談してやろうということとで相談したのが、一昨年の十一月六日、場所的なことも考えまして敦賀で大阪経大の同窓生の親睦会をもちたいと適当なとき発表してくれたいったわけですが、ところが地元新聞が協力してくれまして、大々的に発表してくれました。この集りには学校の方からも藤原先生をはじめ招待したほうがよからうというのでお願いしまして三人の先生がお出になりました。集まったのは二十四、五人、なかには在校生の方が二、三人きておりました。こういうわけで私が責任者になれということでしたが、翌々の新聞に大々的に大阪経大の支部長理事名が発表されて、これはえらいことになったなと思つたんですがこうして福井支部が生まれたわけですが、それから折角出来たのだからなにか行事をやらなければいかんということになって、昨年の四月十五日マンドリンクラブの演奏会を県民会

学生も一体になつて

梶村(丹有支部) 今日の会合には私の支部から二名出さしていただいております。まことにあつかましいかぎりですが、これには事情がございます。私が支部長、隣の倉垣副支部長、二人とも篠山産業高等学校に勤めております。倉垣さんは兵庫県の高等学校の職業教育協会の理事をしていただいております。長年大

館でやらしていただきました。前売券も卒業生に割り当てまして、さばいたんです。そんなわけで四月十五日には同窓会本部から広田事務局長さんが、学校から、中村先生をはじめ三先生がおみえになりましたが、そのとき県民会館超満員で非常によかつた。おかげさんで、大阪経大の名前が非常に売れました。こういうわけで、いざ会合をやるとなると協力してくれるものが現在三十名ほどあります。

谷(徳島支部) 私のほうの支部は古いのですが現在活発に動いておりません。徳島に在籍の方が四十名、そのなかで便り出してもいきつかない方が三名ほどございます。そういうことで、会合をもちたいといつても前もっていいまして五人くらいは出席というのがございますが、地理的な関係上、徳島市内におりまのが十人であとはかならず確保せねば集まってくれません。三十何名で五名ですからあまり支部の活動は活発とはいへません。とくに本県は阿波踊の本場ですから在校生男女合わせて経済大学連として踊つておりますので、個人的に応援してあげたんですが、ことしあたりはどうしたもんだろうかと経費の点で困つておるような状態です。

阪経済大学の卒業生何人かの就職の世話をしていたが、ことに高等學校の先生になるための世話をまことによく面倒をみていたという事があります。先生の手がけていただいた高等學校の先生が四十人にもなろうかと思っております。兵庫県の経大卒業の先生だけで会を開こうじゃないかという話が出てきて、そういつたことに対するご意見もございまして、とくに私がおさそいしてございまして、いただいた次第です。但有支部につきましては總會でいつも申し上げておりますから省かせていただきます。

現在卒業生会員は確認出来ておりますのは百四十八名、現役が約百名ほど、總會のときにも申しましたがOBだけが集まるんじゃないかと現役の者も一諸に組織のなかにはいつてもらって、名前は卒業生会員、現役のものは学生会員と出ておりますが非常に親近感を持っておりまして、お互いに人生相談までできるくらい親しい集まりをもたしていただいております。

佐々木 (広島支部) まず会員数でございますけれども大体百三十人。広島の場合地方の中都市ということ支店、出張所の出入りが多いので現実な数はむずかしいと思えます。最近の活動状況につきましては大きくわけて總會と、二月の入学試験、学生諸君のクラブ活動の側面的な援助——といえは大きですが、この三つ——まず總會につきましては毎年一回やっております、最初は中電の本社の焼け跡の一室を借りて一応やっております。昨年も渡辺理事長さんにお出でいただき、集まったのは三十名。集めるといことはいろいろご意見が出ておりましたが、問題は時期とか方法ということになると

二十周年の姫路支部

思います。支部でやった経験では、サッカーが東洋工業あまり強くないときに定期戦をやっておった。そのあと總會をやった時は非常によく集まってくれた。これからも一つ東洋工業とでも交歓試合をやって、そのあと支部總會をやればこれは集まるんじゃないか、まんざら夢でもないし、ぜひそうしてほしいという希望を持っております。ただ昭和高等時代の連中と新制大学になってからの人たちの年令の開きの問題、最近、若い人はよく集まるようですが、そこから役員を選出するとかそういった問題もあるんじゃないかと思えます。ほんとうによく動いてくれる活動家を役員にお願いしたい。そういつた面で役員の改選をやりたいと思っております。次に荒牧先輩からお話がありましたけれども入学試験は毎年広島商工会議所でやるわけですが、われわれ同窓生が五、六人仕事をほっとして手伝っておる状況です。われわれとしても支部のみなさんがよくやってくれるので感謝をしております。と同時に毎年志願者がふえているので、やはり母校の発展ということもみなさんの心のかかあるんじゃないかと喜んでおる次第です。

永川 (姫路支部)

姫路支部ができましたのは、初代学長の黒正先生が今までというロータリークラブの会合に月一回姫路へきておられて、一つやたらどうかというので二十年前の一月十八日に姫路支部が結成されました。いまの形態は姫路支部といましても加古川あるいは竜野を含みまして、このへんに二百五、六十名、ただ往復はがき出しましてもな

支部の總會にも出来れば本部からご出席の人員に応じて何分の援助することを考えたらどうかということに議論をしたのですが、援助強化の方針で結論は総務部のほうで出しているたたくことになっております。そこできょうはいいい機会ですのでこういった点を含めまして、本部に対する要望がございましたらこのさいお話しただきたいと思えます。

エリアの縮小を

岡田 先程から出ておるエリアの問題ですが、さきほど申し上げましたけれども東海支部は愛知、岐阜、静岡、三重四県にわかれております。広範すぎるためにかえて出席率が悪いということ、岐阜支部なり、三重支部に分轄したらどうかと実は相談したのですが否定されました。これ

は太田第三回先輩と私と二人でいまでやってきた関係で遠慮が多分にあるんじゃないかと思えます。本部のほうから私が推薦する方に手紙を出していただいて岐阜支部をつくらどうかと思えます。また三重県につきましても尾鷲の石川君あたり三重支部をつくらどうかというう提案を本部からしていただいたら、案外支部分割ということが出来るんじゃないかと思うわけです。

—— 岡田さん先程の出席者二十三名という内わけは四県でどのようになっております。

岡田 一番多いのが愛知県、ただ県別にはわけておりません。回数別でやっております。三重県は割合多いんです。三割はあるでしょう。少ないのは静岡県で一割くらい。比企 私、岐阜支部に在籍してお

支部にご参加下さい

同窓会支部は東京支部、東海支部といった地方別の支部から、大阪支役所支部、和歌山相互銀行支部といった職域の支部といろいろありますが、それぞれに先輩後輩のむすび合いも深く、特色のある支部活動が行なわれています。

とかく、年代がはなれすぎると遠慮があるものですが、そんなものは一さい無用です。新しい同窓生もどんどん入会していただき一層たのしい、実り多い支部にしたいと存じます。ふるってご加入下さい。

かなか出席しない。昨年四月十五日に集まったんですが、理事長さん、神戸支部長もきていただいて一番最低のところをみてもらおうということろでみていただいたわけです。私、考えておりますことはことしが二十周年になるわけです。夏休みを目標に名簿の再編成をやっていたら、二十周年を機会に私ほどなたか後進の方がみつければ二十年のアカを落して新しい袋に新しい酒を入れて進んでいきたいという考えを持ってあります。クラブ活動とかさういつたことについて姫路は大都市に近いので各大学がひしめておりました。たまに経大がきましてもあまり目立ちません。きた以上は私も卒業生が在校生と協力して音楽会なんかやっておるわけですがそう目立たないという状態です。もう一つかわったことをやっておりますのは入学試験です。昭和二十六年から姫路で出張試験場を持っていただいてことして十七回目ですが、十年ほど前から高校あてにいろいろアンケートを取りまして、どういつふうに経大を思っているかを報告しておいたわけですが、出張試験場もおかげで経済、経営各都合わせて千名の志願者が

たわけですが、そのときの状況からいいますと、分割しても収支がつぐなわれない。だから岡田さんをつぎ上げておる。結局、収支がつぐなえば支部の分割も可能になるんじゃないかと思えます。

岡田 最近はお成金をもらっておるからそうばかりはいえんですよ。岐阜で最近やったのは一万円ばかり欠損になった。それを三人で分担して補てんしたんですが。

比企 荒牧さんとも赤ですね。

荒牧 私のところもそうですが、これは各支部同じような状況だと思えます。

内田 支部の名簿を送るのに四十五円かかる。郵送費も馬鹿にならない。

世良 各支部長さんはじめ幹部の方々のご尽力が大きいということは私

もつくづく感じておるわけでございます。さつき編集部長申し上げましたようにその点についても検討しなければならんんじゃないかということを常任理事会に出したわけです。またエリアの問題ですが岡田さんのおっしゃったように静岡あたりから見るとは二、三名しかありません。主として岐阜、愛知、三重の方も最初はお見えになったようですけれども最近はお見えが少ない。これは三重県の方からも話がありました。ですからやはりエリアとしてはある程度縮小していかなければならん。新しい支部をおつくりになってほしいと思えます。ここで結論が出されるものは出してやってみてほしいと思っております。

岡田 私の考え方は三重県の南部だけ、これは切り離したい。岐阜、四

クラブ活動の現況 (独立総部)

新 聞 会 顧問名 学生部
部員数 十一名

消費、レジャーブームが横行し、社会の歯車は根深く大学にも及んでい。虚像と実像のミックスした現実社会。この中行き込むのがゆき、その正しい解明を行なうのがわれわれ新聞会の仕事です。学生ジャーナリストとして学園の民主化と発展のため、自らの主体性を保ちつつ、学生と密着した中で、正しい社会の在り方を究明してゆくのです。新聞作り、それは困難な仕事であるが、それだけに得るものも無類の素晴らしさをもっています。大学内で唯一のマス・メディアとしての活動は大学の歴史の一ページ、一ページを刻むものであり、それだけに会員の活動にも迫力があります。取材、インタビュイーに飛び回り、仲間と激論を交すそれが学生ジャーナリストの生活です。

放 送 局 顧問名 学生部
部員数 三十五名

わが放送局は創立二十周年を迎え、団員とともに内容も充実し、今や関西一の応援団と目されています。時代の流れと共に応援活動も移り変わって来

現在のCBSは、アナウンス、技術制作と三つのパートで構成されています。平常の活動は隔日の定時放送、月一回のステレオコンサート、学内外での催し物の技術協力、そしてアナウンス練習、技術講習等。また局の主な活動は8月の録音構成コンクール参加、夏季合宿、十月の大学祭参加、十二月のラジオドラマコンクール参加等です。これら年間二本のコンクール作品は局の全般的な力量を示すものだけにその製作には実は一カ月以上もかけ慎重を期しております。放送活動はけっして個人プレーではありませぬ。局員相互の信頼、製作スタッフ相互の協力がより良い作品を作りあげるのです。

応 援 団 顧問名 梅田 武文
部員数 四十一名

わが応援団は創立二十周年を迎え、団員とともに内容も充実し、今や関西一の応援団と目されています。時代の流れと共に応援活動も移り変わって来

吹奏楽総部 顧問名 井手 経三
部員数 三十一名

吹奏楽部は吹奏楽総部と称し、吹奏楽部とバントワリング部の二つの部から成り立っています。年間行事としては、学内式典参加、六月には関西学生吹奏楽連盟演奏会、同じく全日本学生吹奏楽連盟演奏会、十月から十一月にかけては大学祭の音楽祭、スポーツ祭その他、多彩な行事に参加しております。二年前には関西学生吹奏楽連盟全日本学生吹奏楽連盟に加盟し、昨年度ユニバーシアード参加等学外的にも活躍しています。バントワリング部は

ワンダーフォー 顧問名 古久保五郎
部員数 三十五名

わが部は創設以来十年目を迎え、ますます充実し発展しつつあります。年間、春夏秋冬の四回の本合宿を中心として、他校との合同ワンディング、十数回のバントワンディング等全部員、相互協力のもとに運動、文化の両面を兼ねそなえた幅広い活動を行なっています。わが部の目的は自然を対象にワンディング、すなわち地方遍歴する事により、見聞を広め、身心鍛磨をはかり、クラブ活動を通じて人間形成をめざす事になります。以上の目的をもち、連盟と共にワンダーフォーゲル運動およびワンダーフォーゲル精神の追究と啓蒙発展のために常に部員一同努力をしております。

日市あたりは名古屋からはそう離れてもおりませんし、いまのままでいいと思います。また、名張は独立の気運はあると思います。

荒牧 私の方の九州は一番広い。東海と九州だけは奥城を越えた大きなエリアになっておるわけですね。

三好 神戸も西宮、宝塚それに川西、芦屋、神戸、明石こういっていいでしょう。淡路は別としまして西宮、芦屋、宝塚で名簿は二百八十五名しかのっていないが実数は三百人はおるはず。神戸も西宮、芦屋、川西、宝塚というところは一つの支部があつてしかるべきじゃないかと思ひます。

比企 その件につきましては西宮支部は完全に独立の気運にあります。名簿が完全に出発上がりまして近日中に発足すると思ひます。それから北陸は富山支部があつた独立します三好 西宮が独立されるんだつたら芦屋も加わっていただいで。

比企 現在、新しく分離したいという希望のところは富山と西宮だけ、それ以外はどこからも申し入れがございません。

木下 京都は人数も三百五十名と多いんですが、ここでも舞鶴、福知山と随分離れている。支部総会ということになると京都が観光都市で絶対数も多くどうしても京都ということになります。遠方の人はどうしても出てくれない。福知山あたりに一支部をおつくりになって、これも独立するほうがいいんじゃないかと思ひます。

支部費の増額を

世良 大体ここにおいでになるみな

クラブ活動の現況(芸術会1)

軽音楽部 顧問名 井手 経三 部員数 八十六名

われわれ軽音楽部は部員八十六名をもち、ハワイアン、ウェスタン、ロック、フォーク、ディキシー、コンボ、フルバンド(ラテン、スウィング)以上八つの部門に分れ多彩な活躍をしております。毎年六月に行なわれる単独演奏会 JAZZ COBEBERT を最大の行事とし、芸術会主催ミュージック・フェスティバル、夏季ならびに秋季休暇には中国・四国を新しく北陸地方を加え演奏旅行をやり、またバンド合戦出場も大きな行事の一つとしております。音楽を通じての部員の和を第一の目的としており、部員一人一人の音楽に対する愛好とやる気が今日の軽音楽部をつくり、未来への限りない発展のエネルギーを生み出してきている次第であります。

演劇研究部 顧問名 浜本 泰 部員数 十五名

私達演劇研究部は、わが経大始まって以来の伝統を持つクラブとして大学祭、学内発表を中心としてその成果を問うて参りました。そして今年は更に一歩進んだ活動として学外発表をも企画して参ります。その過程においては我々の今迄の劇作りの経験からして、感情と感情の赤裸々なぶつかり合い役を通じての人間追求、脚本を通じての社会研究等数々の問題に自己をぶつつけられることになるだろう。その中から練磨された人間が生まれるし、またそれがわれわれクラブ活動の真の目的でもあります。他方合宿、合評会、観劇会諸々のレクリエーションを通して、一般的サークル活動の意義の取得にも意を用いて参ります。

写 真 部 顧問名 稲原 康雄 部員数 四十一名

われわれ写真部は自己の持つ芸術感覚を写真というものを通じて形象化するため、お互いに協力し、討論をかさねながら活動を続けて参ります。学外では全日本学生写真連盟ならびに関西学生写真連盟に加盟し、現在第二支部本部校となり大阪大学を聞き各方面の例会、コンテストに参加して参ります。一方学内においては学内展、モデル撮影会、大学祭への積極的参加を行ない、春夏二回の合宿、新入生歓迎ハイキング、キャンプ等充実したサークル活動を続け今年も写真芸術の追求ならびに部員相互の人間性の向上を目標に増々頑張りたいと思ひます。

マンドリンクラ 顧問名 内海 健一 部員数 六十名

先輩諸氏が築いてくれたわがクラブも早くも今年秋の定期演奏会を毎日ホールで開くまでになりました。春のミュージックフェスティバル、阪マン連、夏の演奏旅行など種々の行事を予定しています。このような急激な進歩は、先輩の今までの努力は言うまでもなく幹部を中心に一回生から四回生までがギター、マンドリンを弾く過程において人間関係の種々の問題を背負い丸ごとになって問題を打破り将来へ向かわんとする自分自身を大いに磨かんと努力しているからです。

学校へのお願い

下関に本部をもつておる状態です。北九州市からは下関に下関には十分くらいでくるところが、博多に集まると一時間半かかる。この辺にも問題がある。

佐々木 広島の問題ですが、東部と西部にわけまして、福山、尾道を中心の一つ、さきほどの山口さんのお話のあったように岩国ですが、これはもう山口にひびついているわけです。こういつた問題もあって……エリヤをはっきりきめるのはいかが悪い

世良 政治ではないから行政区割にこだわる必要はない。便利主義でやるのも一応の方法だと思つて。

自己の歩むべき道を考えさせ、人格陶冶をはかることができるならばどんなに素晴らしいことであろう。

茶 華 道 部 顧問名 梅田 武文 部員数 十七名

われわれは、「茶道」「華道」を通じて礼儀作法、言葉使い等を修得することにより節度ある生活を自覚し、それと同時に自己の精神修養を行ない、また美の追求、さらには知識を深め、人格向上をモットーに部員相互間の親睦をはかり有意義な充実した学生生活を送ることを目的として参ります。また関西茶道連盟「やわらぎ会」に入会して他大間との交流をおこなつて参ります。年間行事としては秋季単独茶会、大学祭茶席、春夏二回の合宿、展示会その他バスツアー、ハイキング、茶室造り等をおこなつて参ります。

邦楽同好会 顧問名 松尾 竹彦 部員数 二十一名

現代において日本伝統芸術の一分野をなす「邦楽」というものについて、われわれは偉大な先輩諸氏の生み出した邦楽文化を、より深く追求し、継承、創造しようとするものであります。

ギター同好会 顧問名 大槻 弘 部員数 三十二名

われわれギター同好会はあくまでもクラシックギターを主体として音楽の神髄を極めようとして日夜練習に励んでおり、その練習を通して人間性の育成に努めて参ります。昨年は学館ホールにおける第一回目の発表会が好評を博し、三十余名の会員一同より一層の発展を目指して張り切っています。合宿も四国、淡路島、信州と回を重ね、会員の融和、技術の向上を図つて参ります。今年からは大学祭、ミュージックフェスティバル出演の外に独奏会も予定して参ります。

響をはじき出すためにもう一度支部総会への出席者数をお知らせ願ひたいのですが、先程お話の出なかつた方にも一応支部総会の出席者数を。三好 以前は七十名前後ありましたが現在は四十名。中村 十五名から二十名。小田 山口は二十名。服部 百名。荒牧 二十五名ないし三十名。岡田 二百三十名で二十五名前後。大森 三十名から三十五名。

行政区画にこだわらず

— ありがとうございます。いまお話を聞きしました。い

いたしまして、もっとも援助をするということになりますと多少増えるでしょうが、これも念頭において本部で各支部に出席に応じて応分のものを考へていただくということにしたいと存じます。エリアの問題も支部長のご意見を参考に今後本部の方でも検討したいと思ひますが、いままでに出なかつた地区で特にまだ必要なものは——

世良 九州も大分だけではいけません。中部とか北部とか。

小田 私さきほど山口県といつても徳山地区でつくらないかという話を提出したんですが、いまは下関地区のほうが人員が多いということ

クラブ活動の現況(芸術会2)

映画研究部 顧問名 倉辻 平治 部員数 十七名

われわれ映画研究部の理念は「映画を媒介としての人間形成」ということです。われわれ現在の無気力で不感症・機械化した自己疎外の社会、矛盾と懐疑に充滿した社会を「再認識」し、自己の可能性、方向性を具象化するために自主映画制作を行ない、作品に対して、「建設的」な批判をし、自己検証で一歩一歩前進して行きたいと思ひます。十六編映画を通じて理論と実践、批判面では映画鑑賞と合評会、自主映画祭主催・機関誌の発行、前売券・割引券の配布、大学祭参加、女子大との合同会、レクリエーション等の活動を通じて人間性を豊かに、情操、社会性を高め大学生活を意義あるものにするにつとめて参ります。

美術研究部 顧問名 藤原光治郎 部員数 四十二名

われわれ美術研究部は、美の追求と共に人間愛、人間性の育成を図り、明るい環境で有意義な学生生活を送ろうと部員一同励んでいる次第です。年間の活動は、春の三部合同展、緑輝会展では社交性を通しての人間性、夏季合

さん方がいままでおられたので、ずっと支部の活動が続きだんだん盛んになってきたんだと理解してあります。しかしいつまでもご好意に甘えてはいるわけにもいかず、また皆さんからもご意見を拝聴し本部としても真剣に一つ考えたい。ただそうはいつても独立してくれといったって予算の関係で渡る人がありますから、予算がある程度はつきりしてくればつくりやすいんじゃないか。今後はそういう気運にむいていくと思ひます。去年の総会の予算書をご覧になって大体七百万円前後の総予算のなかで、こんど一線を引いていままでの関係からちょっと概略を申し上げますと、七百万円のうち総会費約六十万円、支部費約六十五万円、学校に対する学園対策費——これは学生を中心に還元してやるうというものが六十万円から八十万円という大きな三本の柱、これと事務費と役員会費それと編集費ということになります。ところが支部費の六十数万円のなかには、さきほどの本部からだけかきとくれというものが四十二万七千円余かかる。みなさんのほうの援助になるのはわずかに二十万円しかない、これをなんとかふやさなければいかにということ、昨年も編集部長と私東京へいったとき話合つたのですが、この時も確か千円の会費でやられたために出席は百名を越した。しかし、ここに服部さんいらっしゃいます、かなり足が出たんじゃないか、雰囲気は最高でしたが、もう少し援助があればということ、何とかしなければならん、出席者に応じて応分の援助は必要だということになったわけです。

— そこで、総務部での今後検討していただく材料として、一応の概

宿では団体生活の中での団結・融和から生まれる人間愛、協調性、秋の大学美術連盟展、大学祭では自由な表現の場として大作に挑んでいます。また伝統の大手前女子短大美術部との合同展合同ハイキング、スケッチング等、多彩な行事を企画しております。他に一年展、学内展等を計画的に含め、より充実した明るいクラブにしたいと思ひております。

吟 詠 部 顧問名 鈴木 正里 部員数 五十九名

湧き出づる絶ゆることなき青春の情熱、これこそわが吟詠部の精神であります。発足以来八年、部員一同の血と汗と涙によって全国学生詩吟連盟に加盟するや、連盟委員長、副委員長、関西支部委員長を出し、また一般競吟大会において個人優勝など輝かしい成績を示しています。一方学内においては芸術祭はもとより、定例学内発表大会岡山大学との交歓大会、そして昨年六月第十回関西支部大会を担当成功させて、部員一同今後の発展を期しております。詩吟という日本古来の芸術を愛することに、われわれを詩の桃源郷に誘い込み、わが身を振り返つて

りませんが、支部のあり方とは別個に、こういうものもあるということをお考えいただきたい。それと同時に卒業生を世話させていただいて学校にお願いしたいんですが、それは教職にはいる場合は採用試験を実施しておるわけですが、各府県で各自それを受ける時期を十分指導しておられないらしい。熱心な先生方は何日に兵庫県はあるからぜひ受けよと指導されるけれどもそれを知らなかった、気がついた時はもうすんでしまっていたという例もある。それを十分徹底させていただきたい。

永川 入学試験のことですが、今年隠し入学のことが新聞にも乗りましたが、私は一つ、これから卒業生もふえてきますので、直系の自分のことにはやはり何等の思慮を設けてほしい。もちろん限度はあるでしょうがこれはぜひやってほしい。これが私立大学のいいところでもあるわけだ。

校ではとんでもない話ですが、私立の高等学校におきましては増し定員があつて、それを裏口入学ということにかこつけて考えることはひどいと思います。そのへん大学当局の新聞社対策が怠慢だと思うのです。裏口入学のようにとられると非常にマインスだと思つてのです。

比企 学校のふん囲気を一応ご参考にお聞きいただきたいと思つています。去年までは七科目くらい単位を残しまして五月三十日の日付で卒業見込み証明書も出したわけですが、ことしからは事情のいかんを問わず三科目以上あると卒業させません。全部無条件留年です。一科目、二科目だけは追試験、一科目だったら三月十八日卒業出来たわけですが、一科目、二科目はレポートじゃなくて追試験受けて合格点をとらなければ留年、三科目は追試験を受けて五月三十日。それほど卒業がきびしくなつた。ことしは開学以来の留年です。またことしはオリエンテーションの途中で抜けていくような人間はほとんどおりません。真面目なところが小さいというかそういう学生が多くなつたということは事実です。そういう意味において学校は転換しつつあるということで、増し定員については歩止まりがよすぎた結果だともいえます。

谷 私 は新聞をはじめで見させてもらったんですが、報道関係に対するPR、発表の方法は内部で検討してもらわんといかんと思つています。けれども、われわれあまりこの点については神経質にならんように、或る意味ではPRしてもらつたんです。

い や どうも長い間ありがとうございました。今後ともよろしくお願ひいたします。

岡田 それからさつき予算の話が出ましたが支部対策費が六十何万円。そのうち純粋な支部費が二十万円。あとの四十万円は出張旅費というわけですか。

倉垣 これはぜひお願いしたいですね。もう一つは学校要覧——入学募集の書類がきまますが、書類をみますと地味ですね。地味で正直すぎる、よそなみにはでにするのも何ですがPRはもっとやってほしい。それと同窓会とのつながり、これが本学のもっとも大きな特徴の一つで、これはよそにはない。こういう特徴を大いに写真を入れるなり何なりいろいろ考えられたらいいと思つています。

荒牧 隠し入学の問題ですが、学生の質をよくするにはどうしたらいいか、いろいろ方法があると思つています。やはりああいうことをなくしていくことだと思つています。それからさきほど直系の子弟の問題、その程度のことばあつてもいいと思つています。実力主義で、学生の質を高めるためになるだけなくしていくということでないといつまでたつても学校はよくならないと思つています。隠し入学については同窓会としての見解という態度を示したほうがいいと思つています。

世良 ご指摘の通りで大いにその方向にもつていきたい。荒牧 本部総会ときには数百円のみならずかな会費でああいう立派なものややつて、支部の場合はある特定の人の負担でやるわけです。本部の総会と同じようになにか記念品みたいなものを出していただくといふ違つてくると思つています。

小田 それから新卒業生の名簿を支部へ送っていただきたい。

比企 いつもだいが遅れるんです。就職がきまつてからこれの調査も必要なので、本人が在学中は下宿して

いるものもあつたりして、これに時間をとられる。出来るだけ早くお送りします。

隠し入学と、増し定員

槐村 ただそこでこういうことがいえるとあります。隠し入学というのと増し定員と混同している。公立学

校ではとんでもない話ですが、私立の高等学校におきましては増し定員があつて、それを裏口入学ということにかこつけて考えることはひどいと思います。そのへん大学当局の新聞社対策が怠慢だと思うのです。裏口入学のようにとられると非常にマインスだと思つてのです。

比企 学校のふん囲気を一応ご参考にお聞きいただきたいと思つています。去年までは七科目くらい単位を残しまして五月三十日の日付で卒業見込み証明書も出したわけですが、ことしからは事情のいかんを問わず三科目以上あると卒業させません。全部無条件留年です。一科目、二科目だけは追試験、一科目だったら三月十八日卒業出来たわけですが、一科目、二科目はレポートじゃなくて追試験受けて合格点をとらなければ留年、三科目は追試験を受けて五月三十日。それほど卒業がきびしくなつた。ことしは開学以来の留年です。またことしはオリエンテーションの途中で抜けていくような人間はほとんどおりません。真面目なところが小さいというかそういう学生が多くなつたということは事実です。そういう意味において学校は転換しつつあるということで、増し定員については歩止まりがよすぎた結果だともいえます。

谷 私 は新聞をはじめで見させてもらったんですが、報道関係に対するPR、発表の方法は内部で検討してもらわんといかんと思つています。けれども、われわれあまりこの点については神経質にならんように、或る意味ではPRしてもらつたんです。

い や どうも長い間ありがとうございました。今後ともよろしくお願ひいたします。



学園だよりの中にもあつたように、いよいよ待望の体育館が完成した。以前の木造とは桁違い、鉄筋コンクリート3階建ての超デラックス版、ここでは国際規格の各種競技が全て行えるように出来ているが、さて、これだけの施設が出来て、将来の体育活動の成果が、ほんとうにたのしみである。

体育館完成

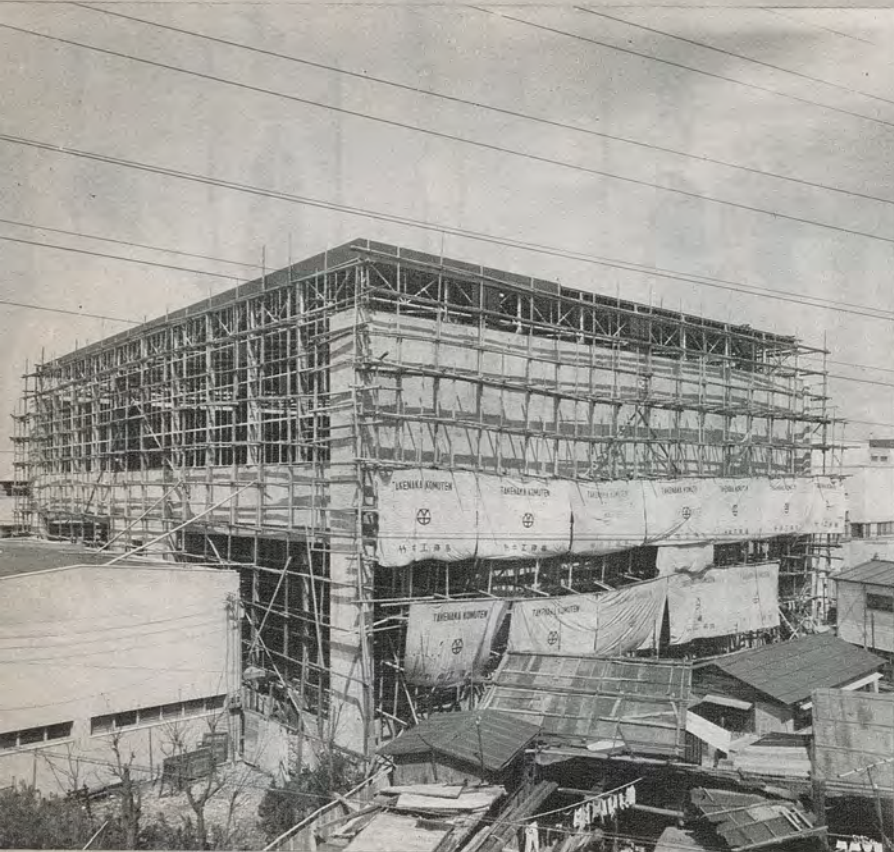
「大阪経大論集」購読希望者へ

本学の全学的な学術機関誌「大阪経大論集」は昭和25年創刊以来定期的に発行され、最近では隔月刊として発行出来るまでになりました。

卒業後も購読を希望される方には下記によりお願ひいたします。せいぜいご利用下さい。

1. 年間	昭和43年度 No. 63 (昭43.5) ~ No. 68 (昭44.3)	¥ 500
	なお昭和40~43年度 No. 47~No. 68 (計22冊) お申し込みの方には	¥ 1,500
2. 分売	各号 ¥ 100 プラス送料	卒業年度、送付先を銘記の上代金を添えお申込み下さい。

申込先 大阪市東淀川区大隅通2丁目 大阪経済大学研究所内 大阪経大学会



建設中の体育館全景、校地南側から写す

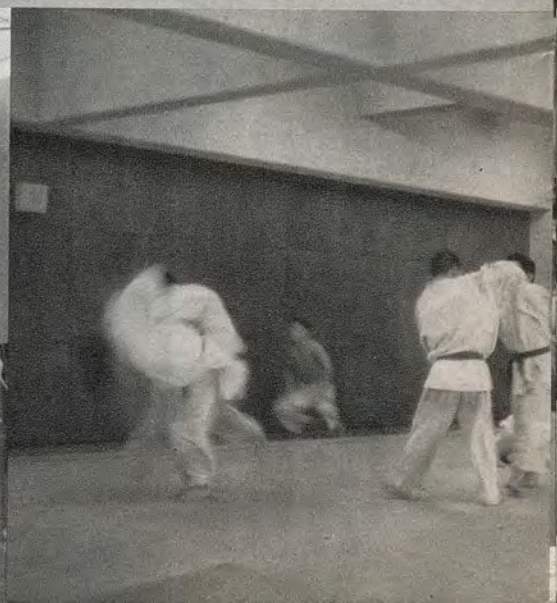


体育館1階、こゝでは卓球、ボクシング、その他基礎体力づくりなどが行える（練習に汗を流す、卓球部員）

3階、練習中のバレーボール部、こゝではバスケットコート2面が同時に使えるというデラックス版



2階の柔道場、2階には更衣室をはじめシャワー室



など、いたれりつくせいの施設がそろっている



輝かしい戦績のあと、1階のトロフィー陳列棚



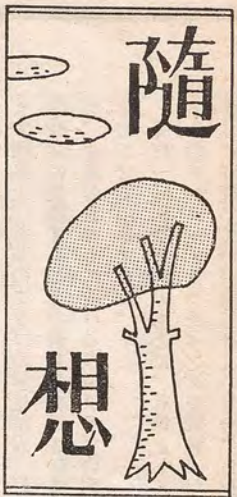
随 想

私の友人にも同じような斯の道のマニヤがいる。土・日の週二回休日制をいち早く実施して大阪でもかなり名の通った中堅会社のT専務だが、金曜日の午後ともなればソワソワして仕事も手につかぬことが多いらしい。「専務さんは自分が鮎釣りに行きたいから週二

回休みにしたのじやない？」と口さがないB G諸子の井戸端会議ならぬおトイレ談議の恰好の話題にされかねない所である。当のT専務はしかし「あの大物を追わせたときのぐつとくる手応へあれを愉しみに俺は生きているようなものさ」と若手課長連相手に旺んに鮎釣り熱を発散させている。そのためか、ゴルフなどお上品な真似事は此の会社は全く敬遠されているそうである。

○釣道楽

私の道楽は鮎の友釣りである。趣味といわず敢て道楽というのは、此の鮎釣りの愉しみにも、飲む・打つ・買うの三極道と相通ずる一面があるからで、毎年梅雨明けの本格的鮎釣りシーズンともなれば、ケインズ、ウエーバーと机上で相対しても一向に身が入らず、心は何時しか紀の川や吉野川の清流に飛んでいるといった、これら飯の種の大先生に甚だ申しわけない仕儀になりがちだからである。(但しここで一言弁解させていただくと、私は未だ、前記の古典落語的道楽を本式に味ったことはない。飲む方は、猪口三杯で真赤になる大下戸だし、打つのは、ゼミ旅行の際旅館で、いまの学生諸君には通用しない戦前派麻雀を披露して笑われる程度、泥んや買う方に於ておや(〜))。



釣談議



倉辻平治

○釣仲間

同類は相集り、同病は相憐む。釣師仲間て病膏盲に入りかけた知名度の高い人士幾人かを拾ってみると……、先ず、参議院随一の鋭い経済理論家ではしばしば佐藤首相を悩ませている木村禰八郎議員も、釣り道楽では聊か奥さんに頭が上らぬ方らしい。寒鮎釣りの季節など未明に奥さんの眼を覚さぬようそっと起き出で、御自分で弁当を作って忍び足に釣場に急がれるとか。鮎釣り熱が昂じて危うく生命を落しかけた著名人の一人は元文相・広島大学長森戸辰雄氏である。文相在任当時、大雨で水嵩の増した利根川で鮎釣りに夢中あまり濁流に流されそうになり、さすが屈強の私服護衛もこれには参ったというエピソードが伝わっている。森戸氏はこの生命がけのマニヤぶりを買われて、本鮎漁会名誉会長に推薦された由である。千葉県佐原水郷の乗込鮎を狙っての帰途、京成電車にはねられ片足をとばしたのは先代三遊亭金馬師匠である。師匠はその後も義足をつけて釣場に通ったらしく釣道楽をねたにした随筆集も出している。

釣師仲間にとって何とも嬉しいのは、幸田露伴という大先生が先輩格として控えておられることである。「水の趣味」というかなり高価な釣雑誌が戦前から出ているが、その立派な題字は露伴先生の筆である。先生の作品の一つに、自分の愛用した名竿に執念が残って死後もその布袋竹の竿をとり戻しにくる江戸前釣師を描いた「幻談」と題する短篇がある。現存作家で鮎釣りのベテランとしては井伏鱒二、滝井孝作の二氏がよく知られてい

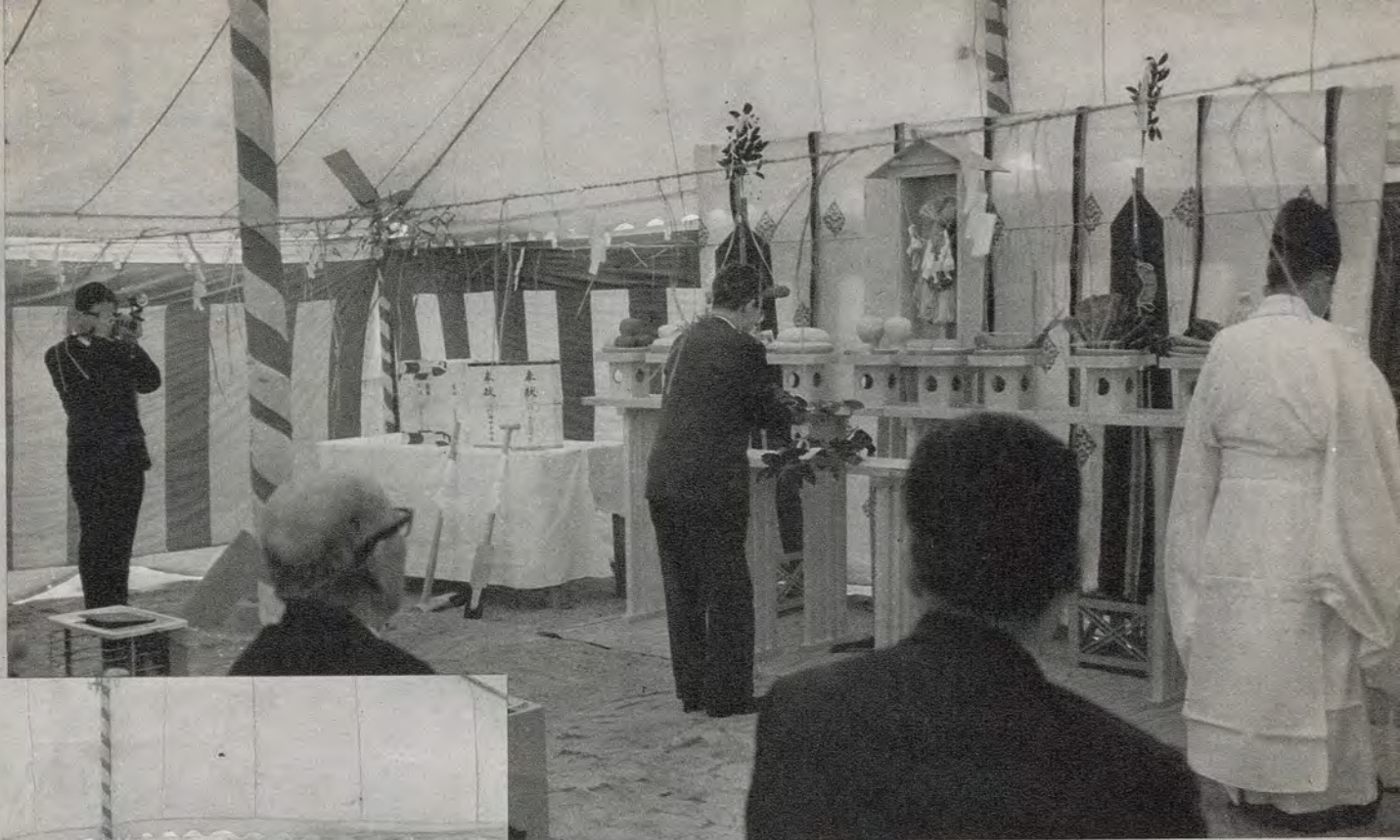
○鮎釣り党

ここ数年海の磯釣りがその豪快さでサンデーアングラーの人気を集めているが、私の好みとしてはやはり鮎の友釣りに止めを刺す。第一、鮎釣りは釣場環境が素晴らしい。川口から遡ること数十キロ、平板緩やかな川の姿態が漸く狭まり、激流岩を噛む深山幽邃の渓谷に変容せんとする辺りが鮎釣りに絶好の場であり釣果はあがらずとも此の環境のよさだけで十分鮎釣りに来た甲斐があるというもの。私は数年前の七月末、友人の車に便乗して奈良県吉野川を遡り、大台ヶ原山麓の伯母峯隧道を抜け熊野川上流に試釣したことがあるが、此の奈良・和歌山・三重三県の境界に位置する北山川上流に降り立ったとき、左右の山の斜面から渓谷に迫る深緑の杉木立の景観の余りの素晴らしさにしばしば茫然として川原に坐り込んでしまった記憶がある。

棲む環境に相応わしく魚質の佳きもまた天下一品。如何な美味といわれる魚にもその魚特有の生臭さはつきものだが、鮎だけは香魚という異名の通り魚とは思えぬユニークな香りをもっている。七月末から八月の半は成熟期の鮎ともなると、釣り上げて銀鱗の肌をひらめかしたとたん早くもメロンそのままの芳香が水面から釣手の鼻を衝いてくる。此の瞬間がまさにわが鮎釣党の泣き所。そしてこの一瞬をもとめて釣師は時に生命がけの冒険をする。

が、さてこの鮎ほどまた釣るに手間ひまかかる魚族も少ない。みみずを垂らせばパッと食いつくという単純素朴な彼女達ではない。それがまた一層此の釣りを魅力あるものにし

茨木市校地鎮祭

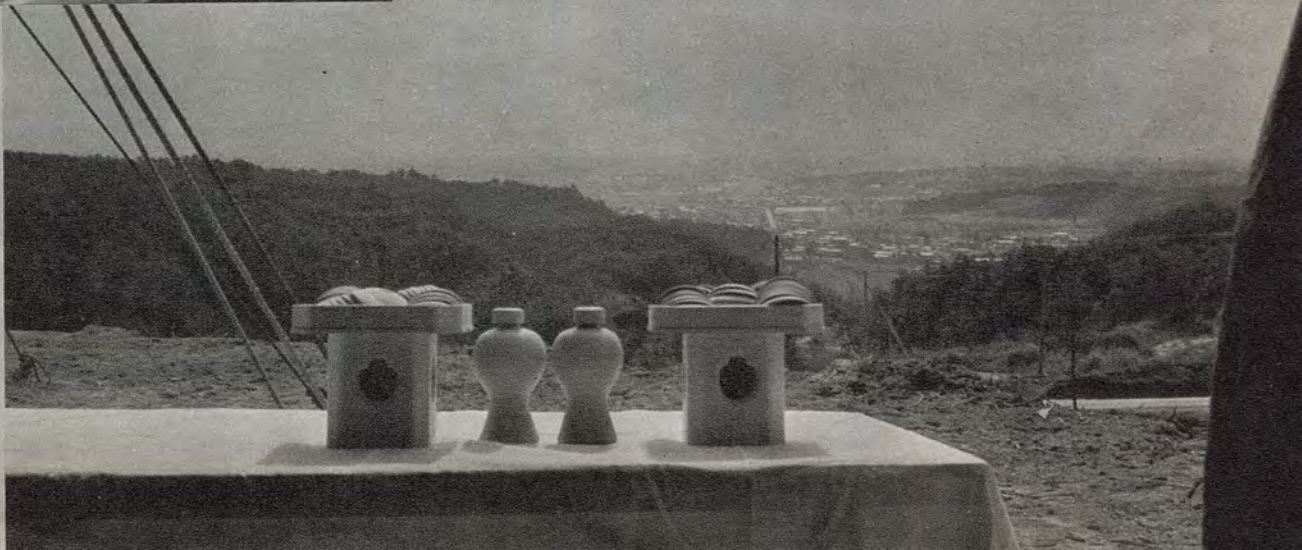


地鎮祭式場
式場より造成地をのぞむ



祝宴

茨木市の郊外に、すでに購入済みの一五万平方メートル余の用地の第一期造成工事が、いよいよはじめられることになった。地鎮祭が行われたのが三月二日、現在はずでに赤肌をさらけ出しているが、こゝにも新天地がひらけることになる。



ているのかも知れない。こちらの口説きにすぐ乗ってくる相手には興味を湧かず、高嶺の花と見える女性ほど余計熱を上げたがるその道の好き者と同じ心理であろう。摂氏四十九度近い八月の炎天下、半日下腹まで川に漬かって一尾のオトリ釣を狙い、くたくたに疲れて釣果空しく帰路につくことも珍らしくない。それが性懲りもなく、また次の日、新しい釣場に期待をつないで朝まだき朝食もそこそこわが家の門を出る。「鮎とわたしとどちらが大事なの」、たまりかねて女房と時に口喧嘩の一つも起ろうというものである。鮎釣りという道楽も、また、所詮その味を覚えたものでないに分らぬ、このような危険な要素を含んでいる。

(本学教授 図書部長)

「若き世代と

和敬清寂」



津 田 昇

「澗江」第3号お送り頂きまして有難う存じます。同窓会誌としての内容の豊富なること、編集プランの実に鮮やかな手ざわの良さに全く敬服いたしています。

同誌29頁の原稿募集拜見し、本学に英語を講ずる一講師として喜んで寄稿させて頂く次第でございます。

私は水曜日に朝から晩まで講義いたしていただきます関係上、お茶のクラブの学生諸君と昼休み時間に接触することが楽しみでございます。今夏の善峰寺に於ける茶道クラブ合宿に参加させて頂きました。

部員一同和敬清寂のもとに、礼節正しく、茶道のメンタル・タッチングを味覚いたしました。夏、なお、涼しきこの寺の、しかも

先生 先輩諸氏 原稿をおよせ下さい
「澗江」はわれわれ同窓生の機関誌です。みなさんのご協力を得て今後ますます立派なものにしていきたいと存じます。つきましては、みなさま方の原稿を心からのぞんでいます。随想もちろん結構ですし、短歌、俳句、川柳、なんでも結構です。遠慮なさらずどしどし編集部までおよせ下さい。

お茶の生活が、私には、この大学の、極めて特長的良さをば認識しないわけにはゆきませんでした。

ある晩クラブの先輩が、来訪されて、共にご持参の西瓜を頂き「大流の水は春ゆけ…」なる学歌を共に詠唱しました時に、若人と共に現に在る仕合せを痛感したのでございませう。

私事で恐縮ですが昨年ニューヨーク大学ウエスタン・ミシガン大学留学の帰途、サンフランシスコでジャパニース・ティ・ガーデンを観光いたしました時、ひょうたん池に泳いでいる形の揃わない大小の金魚、苔のない庭、どぎつい赤い色の五重塔、更におどろいたことにはティー・ハウスで日本の最中とグリーンティを五〇セントで試飲させてくれたのはいいとしても、そのフィリップソンの青年が、黒いズボンに、赤いハッピー、コートその上に赤い鉢巻をして、サービスしているであります。

おお、ミステイク。これらの奇異なる現象をば日本の淡交会あたりで、どしどしと、もっと金をそそぎ込んで、真の日本茶道を外国人に教授すべきであります。さしづめ、本学の茶道クラブ員あたりが将来、どしどし海外にも出かけて、本職の傍ら本当のティ・セレマニーとは何であるか。を、教え込んで頂けるような機会を得らることをば希望して止みません。

この拙文を終るにあたり、善峰寺の庭で、月夜の茶会を催した時に詠じた和歌を面映ゆ

旅は道ずれ



松 本 義 和

い乍らもご披露申し上げたく存じます。「感激」入大阪経済大学の茶道部合宿に参加して詠める……」
若人と和敬清寂したひこし
忘れざらめや永遠にいみじき
野立の夜 心わびしき京の灯に
秋 来にけらし 夏も去ぬめり
有難や善峰寺に 集ひきし
未来を負う 利休の子らや
茶の心 禪に通じる君ならば
忘れざらめや 杉苔の庭
(本学英語科講師)

「旅は道ずれ 世は情け」とはまったくよくいったもの、私も昨年モントリオールで開かれた万国博覧会を訪れる機会を得て、この言葉の意味をしみじみと味わった。

つまり、一九七〇年千里丘陵で開かれる万国博の下見にいったくないかとさそわれて、大阪市経済局編成の観光視察団の一員に加えてもらったのだが、その観光視察団名簿をも

感 懐 十 首

田 岡 嘉 寿 彦

入試会議おわり出づれば夜の街寒々としてみぞれ降り出づ
御恩うけし人の子も落ちてあいすまぬ思ひせつなく会議をおわる
合否線の近く迄来し友の子を思ひつつ帰る暗き夜の街
南と北にわかれ戦ふベトナムの民らあわれなりみな国を思ひて
いつ止むとも知れぬ軍に家焼かれ無辜の民らの逃れまどへる
戦はやめよと叫べどベトナムの空にはとどかずこだまを返す
哨煙に蒸れて咲くらむベトナムの野にも山にも秋草の花
わが夢の成るに難きを悟りたる夕を孫と将棋さしおり
眠をつむり踏み切り得ざる断崖に知性の吾れの寂しくぞ立つ
あれもしこれもし何もせず七十四才除夜の鐘聞く

(本学園 理事長)

らってみると、山中良夫という名前があるではないか、「山中良夫」どこかで聞いた名前だと思つて職業欄を見ると、山中荘取締役とある。あ、あの十九回卒の山中君か——多少長期旅行に不安を感じていた矢先だけに、いっぺんに目の前が明るくなった。さっそく電話をかける。「やあ、やあ、よかったなあ」というわけである。すでに決つていた部屋割も、お互いの相手に了解を得て一緒にしてもらい、羽田を飛び立ったのが残暑もきびしい八月末だった。

モントリオールの万国博についてはすでに新聞、雑誌をはじめテレビ、ラジオなどでもいづく々されているのではぶくが、ただこのモントリオール博を皮切りに、その後のカナダ、北米、メキシコの三週間に及ぶ観光旅行は、まことに愉快だった。

国内でも、そう旅馴れた方ではない上に、海外旅行となると「そう不安がつきまとう、生活様式も畳部屋から、いっぺんに洋式に変わるの何かと不便点が多い。だいたい洋式のホテルなどいっぺんも利用したことがないのだから勝手がわからない。部屋に入ってもマゴマゴのしどろしどろだったが、相手の山中君はさすがに大きな料亭の専務さん、もう一通りは経験済みで、何でもテキパキとやってもらった。

一ばん最初のモントリオールでも、失敗のやりはじめは、風呂場でお湯を出そうと日本式に真中の栓をひねったところ頭からザー——ワイシャツからズボンまでズブ濡れ——つまりシャワーの栓をひねってしまったわけである。

「あらあらこれはね、松本さんこの左右の

栓をこう回すと熱湯と水が出るんですよ」
かと思うと、ワシントンでは部屋に入って見るとベットがない。「どないなってんねん」というと、これはソファアが、ただちにベッドに早がわり、(そんなことわからんか、といわれるかも知れないが、フランスベッドみたいな簡単なものではない)なるほどと感心することはたびたびだった。

会話の方も、外人の宿泊ということもあってか、必要英語の方はペラペラ、さしづめ不便は感じない。こちらは、早朝にリオンとなると、職業柄すぐ手が出てしまう。ねほけまなこで「モシモシ」とやるものなら、立つづけに英語でまくしたてられる。ああここはアメリカだったかと思つてもう遅い。
「松本さん、モーニング・コール、サンキューでいいんですよ」
ああそうか、というわけである。

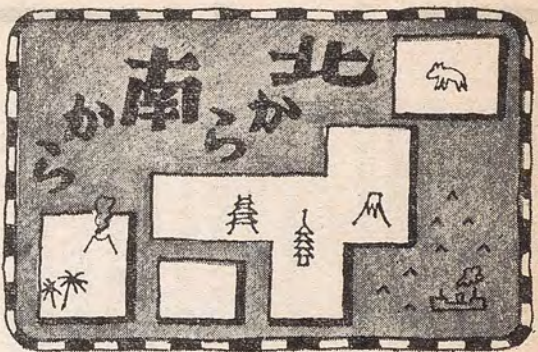
ところで、この大いに世話をやかせた山中君にも弱味があった。彼、とてもひどいイビキをかのである。「グー・グー」なんてなまやさしいものではない。「ガオー・プー」といった左右の往復ビンタなのである。(山中君ごめん)これには大いになやまされた。モントリオールの最初の夜——「しまった」と思つたがもう遅い。ついに眠れる夜と眠れぬ夜が最後まで交互につづいた。

「松本さん、部屋がえだけはなくし、このままいましてね。他の人やったらとても——」
「——」

お互いのパートナーを変えたらどうか、という意見があった時の話である。
この方では、大いに彼も助かった筈である。

あれや、これやいろいろあったが、とにかく楽しい旅だった。いまにしてみれば、あのイビキもほんとうになつかしい。その彼が今度は、同窓会の常任理事になった。先は長いこれからもいっしょに楽しくやりたいものである。

(同窓会常任理事)



アンケート集 短

この原稿は、同窓会員の皆さんからお寄せいただいたもので、事務局の名簿に... ①現況... ②母校同窓会に希望すること... ③同窓の友人などのこと... ④自由にお書き下さい。

第一回 杉野正二
わたしは、第一回生の杉野正二です。二回生、三回生の方は「ヨング」という名前でご記憶がもしません。

いいえ、ここを来るまでが本当のところハランパンジョウ。仔細に申し述べていると、六カ月連載の一大小説ができていくでしょうが、かいつまんで申し上げると、まずスタートは神戸市役所、社会課に配室になり、一人前になると民生局内の企画屋さんといった事で相当重宝がられるようになっていました。

人生遍歴、私のそれは一筋道ではなく「美味いもの喰い」して転々として来ましたが、八年前白い仕事が出来たが張り切っていたのが現在、言わば第四幕の帳帳が、つい今し方スルスルと上ったばかりという、これが経歴であり現況という訳です。

「戦時災害救護係主任」の任命となつて、救急医療品は申すまでもなく、空襲時における棺桶をどうするか、細菌戦の時の飲料水を如何にするやとか、もっと小さい事では、自転車の空気入れを買入れて分散配備した。そんな或る日のこと、父の遺産で買った垂水の大きな自宅が強制疎開に引かかることを探知したのだから、とすると軍部の圧力に屈して私の仕事をやりにくくする局長と意見が衝突したのをこれ幸いとして八年十月の公吏の生活と訣別、郷里は

加賀の金沢へ疎開しました。私は神戸生れ、故郷とは言うものの金沢には本籍とお墓があるだけ。従って職業安定所のご厄介になって動いたのが土建「真柄組」。労務係を振り出しとしてここでも企画の仕事に専任し、四年数カ月後には「株式会社真柄建設の社長秘書兼企画室主任」。当時わが社は全国ランク第十九位まで躍進していたが、これが常務の手腕によるもの。その常務は実に上手に私を使ってくれて、私自身飛ぶ鳥を落とす勢にあつた。この社運のつて大阪にも支店を出そう、と常務の陣頭指揮私にも一関に現地へ来いとこの事、当時十六にあつた閑急ホテル（と記憶している）を宿として東奔西走。このホテルで常務が急死するという事態が起つたからさあ大変、金沢では反対派勢力のクーデター、首切りのリストのトップには勿論私の名前、黙って引つ込めるはずもなく、色々面白話もあつたのだが、随分面倒なことでもあつた。要するに嫌になつたので、人生の他の面ものぞいてみよう、と、ガリ版屋に転向した。勿論首切りのリストに連座した十数人全部はお構いなく、このクーデターは私一人の犠牲に止めるという点まで押しもどしてから、机を離れた。

戦後の混乱期の末期で、ガリ版屋という新しい職業で喰ってゆけることがはつきりとした時期だったが、その技術、その奥儀は誰も知らない。独りで筋をさぐり、先覚者をさがして歩いてみると、ガリ版と馬鹿にしたものではなく、その奥は意外に深く、この技術には「孔版美術」といわれる程の秘芸のあることも分つた。そこで私は一仕事せずんばあらずと、持ち前の企画癖を出して、全国大会を石川県へ招致すると発表した。東京、大阪、京都、熱海と人手の多い大会で開いていた全国大会を、裏日本の、言うなれば片田舎へ引き取って来たのである。

全国の同業者を啞然とさせた一見無茶なこの企画、協力してくれる組合員の方々の粉骨砕身によつて全国的に大好評を博し、私は全国理事に担ぎ上げられた。こんな事で日を過ぎていたためかどうかしらないが、いや、実は皆さんに申訳な

ののだが、わたくし高商出のくせに商売が空下手で、開店五年にして店は一向発展しない。事務の体質改善の波は業界にも波及して手書き謄写の世界へタイプ印刷が同居して来たり、オフセットとか写真複写とか資金は嵩む一方である。そんなある日の朝、妻があっ気なく脳溢血で急死した。ウンもスウもなく死んだ。その後の私は、他人が見たら附け加へて見えたかも知れない。

次の年には店員も職人も放出して「わしは商売は駄目だ。誰か金を出して、タイプ教室を作ってくれて、そこでわしの思う儘やらしてくれんやろか」と夢みたいな事ばかり考えて暮らしていた。三年間も。

そんな時期だが、娘は妻の死んだ年に短大を卒業、長男もその年金沢大学工学部を卒業して機械の技術屋として巣立って行ったし、次男も大学で心理学を専攻している。私自身至極健康であつた。しかし正直喰うや喰わずの日々であつた。そして話は昨年の事になる。「先生」と更生指導所の教諭で、自分で孔版屋を経営、成功しているのがやって来て、「私の叔父がタイプ機の十台ほど抵当に取つたのですが、この機械でタイプ教室でも開けないだろうか、といっている」と言う。「さアね」と私は一応詳しい事を返したが、本当のところ驚いた。夢とは表現になり得ない筈のものなのにこの話本当だろうか、と。

思わずニタニタとなる頬を引きしめて「何とかア」と引き受けて、すぐに生徒募集にとりかかったのが丁度一年前の話である。

仕事に行きつづまった頃金を借りた高利貸に昨日会つたら「安心しました。あの時はまるで影が薄かつたあなたが、今みるとまるで発掘していらつしやる」という。そうだろう、この一年精進を打ち込んでいるのだし、住居も市の中心の家を売つて郊外に移したから環境も上乗だし、そのため金に多少のゆとりもついたので娘の縁談を急いで、これも去年の暮に片がついたし、その上淡いお色気で娘たちが可愛いおしゃべりをして私に聞かせてくれるし。

長期待が表面に出た頃、産業課からお座敷がかかって「工業相談所」設立を命ぜられ、紙一枚もないし、係の人員は私人のみという所から、まず予算を組み、係としての形を整え、庁舎の建設、機械の搬入と十人前の働きを続けて、一年数カ月、新しい庁舎の新しい受付簿に「相談受付第一号」を記載したその日に民生局へ戻つて来いとこの命令。辞令には「養老院事務局長を命ず」とある。さあ、これが大変。ここは新聞に、伏魔殿とたたかれ、院内の男女関係がまるで無茶苦茶で五十余人の職員が誰の女で、明日は誰が宿直室を使う番だといった具合。これを立て直して来いというんだから、在任十数カ月間、出刃庖丁をつきつけられたり、悪質な投書の犯人を探したり、苦しかったが実に面白日々を過ごしました。

私も分室長をしていますので、同窓の女性で不幸な方がおりましたら事務主任として採用したいと前々から考えています。二頃の同窓会への希望はこのことです。

「戦時災害救護係主任」の任命となつて、救急医療品は申すまでもなく、空襲時における棺桶をどうするか、細菌戦の時の飲料水を如何にするやとか、もっと小さい事では、自転車の空気入れを買入れて分散配備した。そんな或る日のこと、父の遺産で買った垂水の大きな自宅が強制疎開に引かかることを探知したのだから、とすると軍部の圧力に屈して私の仕事をやりにくくする局長と意見が衝突したのをこれ幸いとして八年十月の公吏の生活と訣別、郷里は

加賀の金沢へ疎開しました。私は神戸生れ、故郷とは言うものの金沢には本籍とお墓があるだけ。従って職業安定所のご厄介になって動いたのが土建「真柄組」。労務係を振り出しとしてここでも企画の仕事に専任し、四年数カ月後には「株式会社真柄建設の社長秘書兼企画室主任」。当時わが社は全国ランク第十九位まで躍進していたが、これが常務の手腕によるもの。その常務は実に上手に私を使ってくれて、私自身飛ぶ鳥を落とす勢にあつた。この社運のつて大阪にも支店を出そう、と常務の陣頭指揮私にも一関に現地へ来いとこの事、当時十六にあつた閑急ホテル（と記憶している）を宿として東奔西走。このホテルで常務が急死するという事態が起つたからさあ大変、金沢では反対派勢力のクーデター、首切りのリストのトップには勿論私の名前、黙って引つ込めるはずもなく、色々面白話もあつたのだが、随分面倒なことでもあつた。要するに嫌になつたので、人生の他の面ものぞいてみよう、と、ガリ版屋に転向した。勿論首切りのリストに連座した十数人全部はお構いなく、このクーデターは私一人の犠牲に止めるという点まで押しもどしてから、机を離れた。

戦後の混乱期の末期で、ガリ版屋という新しい職業で喰ってゆけることがはつきりとした時期だったが、その技術、その奥儀は誰も知らない。独りで筋をさぐり、先覚者をさがして歩いてみると、ガリ版と馬鹿にしたものではなく、その奥は意外に深く、この技術には「孔版美術」といわれる程の秘芸のあることも分つた。そこで私は一仕事せずんばあらずと、持ち前の企画癖を出して、全国大会を石川県へ招致すると発表した。東京、大阪、京都、熱海と人手の多い大会で開いていた全国大会を、裏日本の、言うなれば片田舎へ引き取って来たのである。

全国の同業者を啞然とさせた一見無茶なこの企画、協力してくれる組合員の方々の粉骨砕身によつて全国的に大好評を博し、私は全国理事に担ぎ上げられた。こんな事で日を過ぎていたためかどうかしらないが、いや、実は皆さんに申訳な

にて同封ご送付いたしますので、何卒よろしくお取り計らい下さいませようお願いいたします。

戦時中は外地におり、戦後引き揚げて参りまして外の住むに家無き状態、転々と住居も変わりご連絡もいたさず失礼致しました。悪しからずご寛容願ひあげます。かねてより、同窓の皆様方のご様子を知りたく思っていました。貴方よりのご通知に接し大変幸です。上京の途次母校にお伺いしてみたいと思っております。今後何かとお世話様になります。よろしくお願ひ申しあげます。母校の色々ご発展の程をお祈り申しあげます。 敬具

の充実に伴ない、夥しい数の卒業生を送り出し、名実共にその名を輝やかして...

第三回 西田 一雄

謹んで「瀬江」第四号を借りて、近況を申し上げます。私は、長年の公生活と...

第四回 原 秀夫

(1)昭和四十一年四月から横浜にて勤務しています。東京へは仕事の関係で良く...

とがある。率先垂範昔型教育者らしい良師であった。合掌。

以上OBの寮頃趣味だよと一笑されそうだが忙しいの臆病なのか、同窓生諸君...

(イ)同窓生が不図街頭で知り合い、或は仕事のはげみのためにも是非経大OB...

第八回 土肥 喜久男

拝復なかなか意欲的なアンケートをご企画されるなど益々ご発展をお慶び申し上げます。

第八回 北村 喜三郎

北辺の地から十何年振りで過日母校を訪れてみてその立派な変化に驚きました。

第五回 崎谷 正夫

一、現況について 卒業以来無事日本鋼管に勤務させてもらっておりますが、東京の大学卒が多...

第六回 増田 通夫

「瀬江」編集ご苦労さまです。 (一)私の現況 現住所 香川県仲多度郡仲南村一七九四番地

第七回 高鳥 良一

「昭和高校は遠くなりにけり」 拝復 お達者で誠に残暑を克服してご活躍の御由ご同慶に存じ上げます。

学、小浜高女、新制若狭高校の活動状況を眺め瀬江の内容に想いを移行させて...

同窓会活動は年老いた古い卒業生が無精に昔を懐かしがり、活発な活動を行ない...

反面、同窓の現況は旧制の卒業生は年々減少してホンの一にぎり程の数となり...

昭和高校の卒業生は新制経大の卒業生の何分の一かであって、その差は年々大...

前号で私は自分の囲囲に集った人像の思出草を、今流行の寮頃祭のつもりで思...

今度にはグーツと趣向を変えて、市川昆オリニック流に、点と線と側面から昔...

八回 前浦 正宣

席下されば幸甚です。 (3)同期卒業の同窓も東京におられるようですがお目にかかる機会なく同期同窓...

返信を聞いておりますと恩師大北、奥村、菊田、藤原、浅沼、山村等諸先生...

卒業してから既に二十年すつと魚市場生活で毎日を忙しく過しています。同窓...

速いもので、私達一四回生は今年卒業二十周年を迎える事となりました。

第一四回 岡本 安太郎

表記のように住居表示が変更になりましたのでお知らせします。「瀬江」たの...

第一四回 岡田 麗子

速いもので、私達一四回生は今年卒業二十周年を迎える事となりました。

第一四回 中村 律子

いつもご苦労様です。 表記のように住居表示が変更になりましたのでお知らせします。「瀬江」たの...

て、パンも余り味がなかった。私の財布が軽かったからだらう。印象群の一つ。

▼下宿は駅前通り銀行荘のそば、六回の清水さん七回の早川さん、俱に柔道の猛者、...

▼「次は上新庄上新庄瑞光寺昭和高商前」今はないようである。新京阪電車は...

▼今本館のある場所が運動場。夏休み明けに登校して来るとベンチ原草カ原、早速中島さん米津さんに狩り出る...

母校の校舎が立派に出来上って、久方ぶりに訪れた時のことである。

上野駅まで下車、二十年前に通った道を歩いてみた。駅前の変わりようにも驚いたが、歩くにつれて新幹線をはじめ道...

ふと窓の外をみると、灰色のすすけた工場と砂ぼりをたてて走り去るトラック、それに校門前の市場——こうした風景はおよそ「大学」らしくないと思...

閉学——緑の芝生とそれを囲んだ校舎群 関大——宏大なまで「学園都市」。

やはり大学とは、それをとりまく周囲の地帯まで含めて「大学」なのである。

一五回 吉田 千代子

本日はご丁寧な連絡を頂きまして恐縮に存じます。光陰矢の如しの言葉がびつたりする程の歳月を毎日忙しさにまぎれて何のご通知も申し上げず打過ぎました事を大変恥しく存じます。

北から南から

母校におかれましては増々のご発展で何よりとお喜び申し上げますと共に同窓

生諸兄姉の皆様には、増々ご活躍の御事と推察致しております。

私も中学生の母親で、すっかり中年肥りを気にするようになりまして、家族は主人と三人、元気に暮しております。名古屋へおこしの節はどうぞお立寄り下さいませ。誠に僅少ですが、同封のお金窓会の費用なりとにお引当て頂ければ幸甚に存じます。

末筆乍ら、先生方並に同窓生諸兄姉のご健勝を心からお祈り申し上げます。
一八回 陶山 益三
拝啓 今回の異動で東京総務部料金奉仕課長を命ぜられ、この程着任致しました。前任地青森支社在任中は一方ならぬご厚情を賜わり厚くお礼申し上げます。雪の青森からマンモス東京への転任は何かにつけとまどいがちですが、専心社業に励む所存でありますので、何卒今後共一層のご指導を賜わりますようお願いします。昭和四十三年一月
追而 勤務先は八重洲口、住いは「よみうりランド」に近く快適なところでありますので上京の折はお立寄り下さいませ。

第一九回 梶本 正次郎
地方におりますので地方支部名、所在先等編集に織込んで頂ければ幸いに存じます。

第一九回 刀 彌 啓一
「澗江」何時も楽しく読ませていただいております。内容もだんだん豪華になり編集委員の方々のご苦労も大へんど存じます。小生只今(株)富屋商店、外商部第一課兼小売部課長として、行業シーズン及び酒類、タバコ増税値上げと何かと毎日多忙な日々を送っております。

役員諸兄のご健勝を祈ります。 敬具
追伸 先日同期の朴春教君が尋ねて来ました。独自目下花嫁を探しております。どなたか良いお嬢さんおられませんか？
第二二回 山名 信益
拝復
ご丁寧なお手紙たえず、いただき感謝の他ありません。今回の同窓会総会にはぜひ出席したいと念じておりましたが、今年もまた、予算編成準備のため、出勤のやむなきに到り、また欠席したことに深く恥入ります。学校の近くには友人がおり時々学校に入り昔をしのんでおります。貴方始め皆様方のご尽力により大学院併置の学校にまで、成長できたことがうれしく思います。本校の名誉にかけてがんばります。同窓会欠席のべんとして聞き流して下さい。 草々
渡辺達好様

第二一回 富宇地 守正
前略、今度左記へ転居致しましたのでよろしく願いたいとします。
第二四回 磯崎 泰宏
十年一昔というがはやいもので、私達第二四回生が卒業して十年となる。先日所用があり久々に母校を訪れたが、幾多の新顔が所狭しと林立しその変化には全く驚ろかさされた。
学生時代を過ごした旧館に入ってみると、ブンと昔懐かしい一種独特のなんともいえない嗅いで鼻につく。しばし冥想……色々の想い出がそれこそ走馬灯の如く眼前を駆け回る。地下のクラブ室に寄ってみる。

第二四回 磯崎 泰宏
十年一昔というがはやいもので私達第二四回生が卒業して十年となる。先日所用があり久々に母校を訪れたが、幾多の新顔が所狭しと林立しその変化には全く驚ろかさされた。
学生時代を過ごした旧館に入ってみると、ブンと昔懐かしい一種独特のなんともいえない嗅いで鼻につく。しばし冥想……色々の想い出がそれこそ走馬灯の如く眼前を駆け回る。地下のクラブ室に寄ってみる。

第三〇回 植村 兵衛
(一)プラスチック加工業独立経営と
も近大大学院商学研究科(会計学研究)に在学中
(二)縦横のつながりをもっと緊密に社会にでても経大生どうし助けあえる場を、もっと作りたいと思う。

第三〇回 末次 利孝
前略 現在巡回営業マン(ロードマン)として働いています。販売の世界は自分の働き(実力)の世界、毎日コマネミのように働いています。申し訳ありませんが母校の同窓会に何を希望するのか自分で考えてみたことがあります。
現在広島市を中心に中国地区で働いて

第三〇回 石川 政明
母校大阪経済大学を巣立、早くも五日を迎え勤務致しております。和歌山相互銀行にも私の入行後四度目の母校の後輩を迎えました。企業内においては昨年より検討を進められてきた「中小企業金融制度のあり方について」の大蔵省金融制度調査会の最終答申が昨年十二月二十日になされ、今後予想される金融機関の再編成、効率化等の問題をかかえ企業内容充実の急務の旗のもと中堅行員としての使命は大きく、微力ながら母校の名誉にかけて和歌山相互銀行大阪経済大学同窓会支部役員二十名と共に企業発展に努力致しております。

第三〇回 中西 洵
拜復同窓会ご案内ありがとうございます。今本人の勤務が水島港(岡山)で貨物船の入港は客船とちがって割り合い不規則のために思うようにならず、母校の発展のために接し得られないのが残念。はるかに経大の発展をお祈りいたした。

第三二回 黒田 幸作
母校の発展心からお慶び申し上げます。今度富山県におきましては早川(七回卒)重松(二回卒)両氏が音頭をとられ「大阪経大富山県支部同窓会」を来る四月中旬発足を目標に名簿を作成しております。不十分なながらもようやく出来ましたので支部発足の運びとなりました。今後は母校のため、また会員相互の向上のため有形無形に協力していこうと思っております。
簡単ながら異人會発足予定のご案内までお待ちしております。十月十六日(代理母)

た、かつての経営経済の部屋が空になっていた。：。そうだこの地下室で何度クラスマート遊ばし、青春を論じ、将来を夢見たことか、卒業後音信不通となつてしまった昔の仲間のことか、ついで昨日のことのように想い出される。新顔をのぞいてみる。昔と比べもものならぬ立派な設備を持つ近代的な教室が並んでいる。事務所も面目を一新し、学生時代窓口で直接話をしていた方々も出世され、奥に座しておられるせい、か窓からは見知らぬ人ばかり、自分の疎遠を欄にあげ、一抹の淋しさを感じる。教えられて同窓会室に行きおられた先輩方にお目にかかった。初対面にも抱えず旧知のような感じで、つい長座させてもらった。立派になった母校を見るにつけ今後は度々訪れてみたいと思ふ。今迄の勝手に心を詫言つてお詫告げた。

第二二回 三宅 陽二郎
住居移転ご通知
春風駘蕩の候ご同様に如何にお過ごしでございますかお伺い申し上げます。私方一同無事消光罷在ります故他事作らご放念下さい。
さて、今般私達の夢でありました新居を完成し四月一日を以て左記場所に無事移転致しました。

第二六回 黒田 幸作
母校の発展心からお慶び申し上げます。今度富山県におきましては早川(七回卒)重松(二回卒)両氏が音頭をとられ「大阪経大富山県支部同窓会」を来る四月中旬発足を目標に名簿を作成しております。不十分なながらもようやく出来ましたので支部発足の運びとなりました。今後は母校のため、また会員相互の向上のため有形無形に協力していこうと思っております。
簡単ながら異人會発足予定のご案内までお待ちしております。十月十六日(代理母)

第三一回 中井 三和
(1)就職部のお世話で石油会社に入りましたが、約2年で退職し現在紳士服の販売をしております。目下熾烈な業界の環境の中で元気に闘っております。
(2)時々事務局へお邪魔しますが、少ない人員で煩雑な仕事を消化されておられる事に対して感謝します。
私の同窓会に対する希望は同窓生の縦横の緊密化を計っていただきたいこと。
(3)同期の友は帰郷、転勤等で段々と周囲は淋しくなつてゆきます。仲間揃つて酒が楽しくうまくなつてゆく日はいつのことやら……
(4)経大同窓会の発展と先輩諸兄同期諸君のご健康を祈ります。

第三二回 弘志
小生卒業してから早や三年過ぎようとしております。今度卒業生名簿作成された様子ですが、ご骨折、ご苦労様でした。小生今日まで気が付かずだったので、最近友達の所へ行き、名簿がありましたので早速手紙を書いた次第です。もし残りがあれば送付願いたく存じます。尚代金五〇〇円及び送料百円同封しますので何卒よろしく願ひ申し上げます。
追記
また小生今般転居しましたのでお知らせします。

第三二回 四方 康夫
前略 遅くなり申し訳ありません。三月十八日に父が亡くなり後の整理に追われており、遅くなりました。今後は父のかわり一家を切り回さなければならず大変です。二五才で第二人と母を見なければならず大学と高校の授業料

第三二回 国本 忠夫
(一)カドヤ本店の管理課に勤務して、日用品の卸問屋で春夏秋冬の準備にいそがしい毎日です。
(二)特にありません。
(三)カドヤ本店内に経大卒が多数いて重要な地位を占めつつあります。
(四)三二回卒業時にアルバムをもらって、いまだ一部送達して下さい。

第三〇回 玉理 七郎
前略 小生三月初めより、出張致しております。関係で、ご返事が遅れ申し訳なく思っております。
現況について
私は卒業後、一年間に三つの会社を転々としてきました。
銀行に一週間、酸業会社に二ヵ月、そして建設会社に十ヵ月です。その後、私の家で舗(ヤスリ)製造業を営んでいる関係で、家の仕事に専事する外ないという事になり、家に帰って来ました。従業員四十名(内父、三人の兄)の小さな会社ではあるが、ここが一生の務め先と親念した以上、出来るだけ働き易い、良い会社にしてと決心しました。
私は、まず第一に体質改善の必要がある。と考へ衛生管理者、労務管理者になり積極的になれ、実行していきなす。無学な従業員(職人)、労働力の不足、財政上の問題等、いろいろと障害があり理論どおりにはいけません。段階的に少づづ改良していきなす。
同時に販売面も担当し販売促進 シェアりの拡大等に積極的に取り組み、私も今では月の内、半分以上は日本の主要都市をセールスして回っています。
しかし、メーカーにとって一番重要で基本的な問題である顧客に良い品をより安く提供しようといういわゆる品質の管理、改良、生産性の向上、合理化等これから手をつけないならい問題が山積しています。今年に入つてから技術面の研究を、手掛けるためには直接生産に介入する必要がありと考へ習い始めました。普通の見習職工と違って私の場合、半月は出張しているの、一人前の職人になるには、三、四年はかかるかと思ひます。がやりぬく決意です。

第三〇回 中西 洵
拜復同窓会ご案内ありがとうございます。今本人の勤務が水島港(岡山)で貨物船の入港は客船とちがって割り合い不規則のために思うようにならず、母校の発展のために接し得られないのが残念。はるかに経大の発展をお祈りいたした。

で、正式に発足した際にはまたご連絡いたします。

第二七回 森 泉 新一郎
卒業以来七年経過しました。今や母校は学長始め、先生先輩学校関係者諸氏のお力添えにより礎は立派に出来上がり、世に名実共に存在を強くしつつあります。誠に喜ばしい事です。如て年を経るにつけて同窓会に寄せる心持は深いものと思ひます。恒例十一月の同窓会に出席しての感では出席者が少い事です。どの催しについてもいえる事かも知れませんが、学校と卒業生を結ぶ唯一の交流場所として大いに活用し、勤務先の遠方、仕事との関係等で当日出席出来なかつた諸氏はせめて機関紙澗江を通じて校風と友情を保持しようではありますんか。母校のより一層の発展と卒業生諸氏の世の荒波に対する活躍を期待しております。
母眼病のため家におります。

第二八回 平尾 哲男
「理事として」
今年度より理事の委嘱を受けましたが、理事会の報告もなく、我々としての任務が不明です。
年次毎の同窓会を開催したく存じます。名簿に不明の人がありましたらその調査方法は如何ですか。

第二九回 川原田 仁 昭
前略 待望の同窓会誌「澗江」が届き拝受しました。卒業後東京や千葉に赴任で、住所も二転三転してなれば母校や学友との便りもただえがちでしたので、「澗江」の有りがたは一沙で母校を懐古、再三再四の読み返しをしています。
尚職場と住所が左記の通り変りましたので連絡します。

第三二回 坂手 恭介
(一)四一年卒業後神戸大学大学院において原価計算の基礎理論を学び、ややく修士課程を終えて、広島商大に就職しました。経大時代にもっと独語をやつておけばよかったと悔んでいます。
簿記会計研究部で、また北里セミナーで会計理論を学んでいたころが、なつかしく諸先生、諸先輩のご指導を十分理解出来なかつた頃のことを度々思い出してはいます。こんな自分にも教壇に立つ資格があるのだろうか、今から心配です。
(二)定例の会合以外に特別の催物(例えば設備図書、大学院設置、その他)の発展を記念する会合等の開催を計画しては如何
(三)友人にも大学院で学ぶ人は多く、私の立場からは今後も大学院に進学される方が増えることを望みます。

第三二回 坂手 恭介
(一)四一年卒業後神戸大学大学院において原価計算の基礎理論を学び、ややく修士課程を終えて、広島商大に就職しました。経大時代にもっと独語をやつておけばよかったと悔んでいます。
簿記会計研究部で、また北里セミナーで会計理論を学んでいたころが、なつかしく諸先生、諸先輩のご指導を十分理解出来なかつた頃のことを度々思い出してはいます。こんな自分にも教壇に立つ資格があるのだろうか、今から心配です。
(二)定例の会合以外に特別の催物(例えば設備図書、大学院設置、その他)の発展を記念する会合等の開催を計画しては如何
(三)友人にも大学院で学ぶ人は多く、私の立場からは今後も大学院に進学される方が増えることを望みます。

第三二回 坂手 恭介
(一)四一年卒業後神戸大学大学院において原価計算の基礎理論を学び、ややく修士課程を終えて、広島商大に就職しました。経大時代にもっと独語をやつておけばよかったと悔んでいます。
簿記会計研究部で、また北里セミナーで会計理論を学んでいたころが、なつかしく諸先生、諸先輩のご指導を十分理解出来なかつた頃のことを度々思い出してはいます。こんな自分にも教壇に立つ資格があるのだろうか、今から心配です。
(二)定例の会合以外に特別の催物(例えば設備図書、大学院設置、その他)の発展を記念する会合等の開催を計画しては如何
(三)友人にも大学院で学ぶ人は多く、私の立場からは今後も大学院に進学される方が増えることを望みます。

第三二回 坂手 恭介
(一)四一年卒業後神戸大学大学院において原価計算の基礎理論を学び、ややく修士課程を終えて、広島商大に就職しました。経大時代にもっと独語をやつておけばよかったと悔んでいます。
簿記会計研究部で、また北里セミナーで会計理論を学んでいたころが、なつかしく諸先生、諸先輩のご指導を十分理解出来なかつた頃のことを度々思い出してはいます。こんな自分にも教壇に立つ資格があるのだろうか、今から心配です。
(二)定例の会合以外に特別の催物(例えば設備図書、大学院設置、その他)の発展を記念する会合等の開催を計画しては如何
(三)友人にも大学院で学ぶ人は多く、私の立場からは今後も大学院に進学される方が増えることを望みます。

第三二回 坂手 恭介
(一)四一年卒業後神戸大学大学院において原価計算の基礎理論を学び、ややく修士課程を終えて、広島商大に就職しました。経大時代にもっと独語をやつておけばよかったと悔んでいます。
簿記会計研究部で、また北里セミナーで会計理論を学んでいたころが、なつかしく諸先生、諸先輩のご指導を十分理解出来なかつた頃のことを度々思い出してはいます。こんな自分にも教壇に立つ資格があるのだろうか、今から心配です。
(二)定例の会合以外に特別の催物(例えば設備図書、大学院設置、その他)の発展を記念する会合等の開催を計画しては如何
(三)友人にも大学院で学ぶ人は多く、私の立場からは今後も大学院に進学される方が増えることを望みます。

第三回 浅田 昭人
一、勤務一年足らずして、肺結核にかかり現在、大府町の中部病院にて療養中自己健康管理を充分にし、社会へ前進の歩を踏み出したいと思っています。
二、同窓会誌を会員に送付できないでしようか。

る事が出来ました。この活動で得た事は今後においても大いに役立てていきたいです。そしてまた自己の個性をのばすために大いに励んでやってみよう。今後においてもフアイトをもつて努力してやっつけていきたいです。どうかよろしくご指導下さいませようお願いします。

第三四回 白藤 勝

現況―河合楽器製作所大阪支店 枚方営業所大東拠点営業所勤務
希望―機関紙「澗江」と同時に経大新聞の一年間ハイライト版か、機関新聞のようなものを作成して半年ごとぐらいい知らせたい。現状ではややPR不足(経大同窓会)だと思っておりますが、いかがですか。

第三回 今村 節男
前略 卒業後早くも一年が過ぎてしまいました。この一年間は四年間の夜学から解放されて与えられた職務の遂行に努力して参りました。そして私にとりましては初めての同窓会に共に学んだ同僚と共に楽しく出席させて頂きました。初めての経験でございましたので別段希望する事はありませんが、全国のあちこちでの同窓生の活躍振りを楽しみ一段と心の引締めをせねばと思いました。
私共の職場にも多くの同窓生や在学生がいますので共に頑張りたいと思っております。

第三回 高橋 洋

「澗江」三号編集発行ご苦労様でした。確かに受取りました。春に卒業以来久しぶり学園の近況をみて懐しく思っています。小生弥生X線工業(株)大分出張所に配属されたので宜しくお願ひ致します。学生時代はゼミ協役員として頑張った積りですが、社会には仲々通用しそうにもありません。今後とも努力精進致します。

第三四回 新居 安英

四年間の大学生活を終え、この四月から大学院で勉強する事になりました。この四年間で得た学問の専門分野を大いに深め社会に役立つ人間になりたいと思っております。学生時代にはクラブ活動、ゼミ活動その他サークル活動を通じてよりよい人間性の確立のために有意義な事を沢山得ました。そして精神練磨の著しい作業の

第三四回 山本 光章

桜花爛漫の巷に私達若鮎?は確かに放たれました。私達は社会に期待を持ち、また不安を感じつつこの敵しい現実社会に、確実に足踏をつけていかねばならぬ責任と使命の許に自己を見極めて活動していかなばなりません。と申しましたも私はまだ勤務に付きまして一カ月余りですが、学生気分が未だ抜けやらず自分に甘えまた社会の差しのべてくれる手につかまりながら歩み出したところです。私の会社は中小企業の典型的な企業内容で、今後かなりの発展性が見られねばならない会社なのです。まだ表面的な部分しか見ておりませんが、少し性急な感もありませぬ。私は自分で選んだ会社です。自分の希望通りの会社に入社出来、配属も私の一番したかった仕事、営業に決定。今その研修中です。会社の中にはいろいろな仕事がありますが、私は一番辛い仕事からさせてもらうことにしました。そして精神練磨の著しい作業の

第三四回 岩崎 一

私は、この三月十八日に卒業し、長い学生時代とも別れ、大きな希望と夢をもって社会人としてのスタートをきったところです。現在、教育中ですが、社会というところが敵しいものだと思っております。でも自分に誠実に、フェアに、失敗を恐れず努力しようとはりきっています。

第三四回 柏原 義盛

私のような一番新しい卒業の者が学校に対しての希望などを書くという事は諸先輩方々に申し訳けないと思っております。しかし現在の経大はどうかとの返事にはやはり多く答えられるのではないでしようか、今日はその中の経大のマンモス化に対しての学校の受入態勢を少し述べる事にしたい。校舎の増築を見ると一見学生に対して十分のように思われる建物が一一人の学生の利用率という面で見ると、かざられた所を利用して平等に多くの学生が利用しているとはいき切事事は出来ないと思う。また利用しない学

生も多い所も欠点だが、やはり学校も学生の利用率を高めるために何らかの考慮をはかってほしい。たいがい私も利用出来る所は大いに利用させてもらったのですが、まだまだ少しものたりなかつたように感じますので私なりの考えを思いつくまま書いて次第です。私も今では社会人となり電子計算機等機械に挑戦しております。



澗江の発行が、またまた遅くなった、まことに申し訳けない。
▽六月末発行の予定が一カ月以上も遅れてしまった。ために原稿の新鮮さが失われピンントはずれの記事も出来てしまった。

▽申し訳はいっさいしないつもりだったが、とにかく原稿の寄りが悪かったという一語につきる。
▽来年は新任の同窓会事務局長も就任されたことであり、この事務局を中心にもっと内容のある、立派な「澗江」を発行することを約束してペンをおく。(松本記)

澗江 第4号
発行人 渡辺 達好
発行所 大阪経済大学同窓会
印刷所 共成社印刷株式会社

学 歌

作詞 故秋本吉郎(元本学教授)
作曲 柴田南雄(東京芸術大学教授)

一 大淀の

水は春ゆく ゆたかな春だ
芽立つ葦原 緑がしみる
この若さ

希望は明るい 蒼空かけて
永遠の青春 みなぎる学園
大阪 大阪経済大学

二 大樟の

蔭は裕々 夏風そよぐ
学徒師弟が 幹負ひもちて
諸汗に 確つかと植えた 融和の象徴
繁れ自由の 花さく学園
大阪 大阪経済大学

三 そびえたつ

白亜の殿堂 秋空高い
澄んだ心に 鐘なりわたる
晴れ空だ ひらく真理の 扉につどふ
面はかがやく 求理の学園
大阪 大阪経済大学

四 濼標

世界の商都の 入船出船
水先みちびく 経済実践
前途はるか 氷る潮路も 乗切る気力だ
自由で揺がぬ 自治立つ学園
大阪 大阪経済大学

逍 遙 歌

作詩 中村行男
作曲 松川圭一

(一) 此処城北に迎えたる
紺碧淀の春の夢
惜春の賦のたよえは
薫風静かに流れ来て
逝きし苦節の十余年
歴史は吾等に教うなり

(二) 水やにこれる人の世に
真理求めて遊ぶ子の
友愛久遠に変わらまじ
汝が悲しみに我は泣き
吾が喜びに君や舞う
惜みて励め我が春を

(三) 集いの庭を共にせし
我が学舎の乙女子は
愁の時は過ぎ去りて
理想の遠地にひたぶるに
幸を求めて馳けるとや
感激新たな此の曲に

(四) 虫の音すだく秋来れば
小川こよなくさびた、え
こち吹く風に花なびき
自然しないて逍遙の
尋ぬる途は遠くして
雍露人生はかなしや

(五) 乱る金剛枯風の
叫ぶ野嵐粉吹雪
緑定石に佇ずめば
無言に教うる朔風の
肌なきびしき鞭なれど
懐古樂しや語り草

(六) 霜ふみ通うこの朝
暮る、易きやこの夕
真冬寒波の寄せ来てや
淡き光のいざないに
汝が故郷を偲ぶれば
鐘の音さびし瑞光寺

(七) 小鳥が森に歌うとも
小羊野辺にたわむとも
さすらい旅の此の世には
花びら風に待たずして
春や心の乙女子は
はかなき恋に泣くとかや

(八) 想いめぐりて尽きぬ時
緑が原に人訪えば
落葉か、れる語らいに
愁憂の声今はなく
新たに目醒むる者のみの
微笑は花に映ずなり



大阪経済大学同窓会誌 NO.4